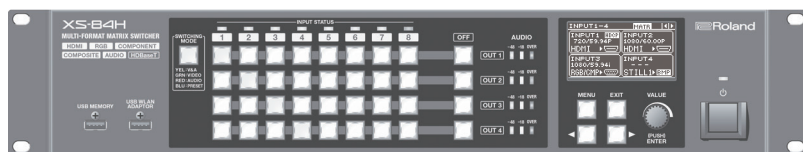
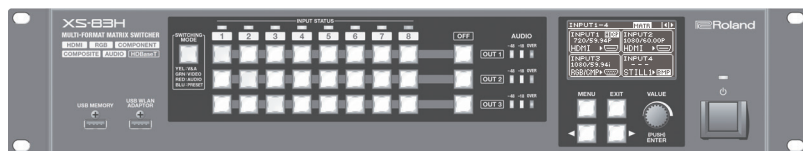
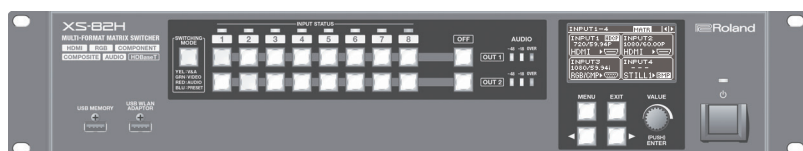


XS-82H XS-83H XS-84H MULTI-FORMAT MATRIX SWITCHER



取扱説明書

📖 取扱説明書 (本書)

最初に読んでください。使いかたの基本操作を説明しています。

📄 PDF マニュアル (Web からダウンロード)

• リファレンス・マニュアル

本機のすべてのパラメーターについて解説しています。
また、本機をリモート・コントロールで使うときの各種設定について解説しています。

📄 PDF マニュアルの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。
<http://www.roland.co.jp/manuals/>



2. 製品名「XS-82H」「XS-83H」「XS-84H」を選んでください。

目次

安全上のご注意	3
使用上のご注意	5
各部の名称とはたらき	6
フロント/トップ/サイド・パネル	6
リア・パネル	8
設置と準備	9
ラック・マウント時のご注意	9
ゴム足を取り付ける	9
ユーロブロック・プラグにケーブルを接続する	9
外部機器の接続	10
映像のソース機器/出力機器を接続する	10
音声のソース機器/出力機器を接続する	11
ファンタム電源を使う	11
電源コードを接続する	12
基本の操作	13
電源を入れる/切る	13
メニューを操作する	13
ディスプレイの表示を切り替える	14
オーディオ・フェーダーのアサインを変更する	14
映像の操作	15
映像入力チャンネルごとに映像信号を設定する	15
映像ソースを共有する (SHARE)	15
クロス・ポイントを切り替える	15
著作権保護 (HDCP) のかかっている映像を入力/出力する	16
HDMI 出力と HDBaseT 出力を切り替える	17
読み込んだ静止画を出力する	17
映像の出力モードを切り替える	18
出力映像にフェードをかける	20

音声の操作	21
マイク・ゲインを調整する	21
入力音声の音量バランスを調整する	21
出力音声の音量を調整する	22
その他の機能	23
設定を保存する/呼び出す (プリセット)	23
USB メモリーに設定を保存する	23
USB メモリーをフォーマットする	24
設定を工場出荷時の状態に戻す (ファクトリー・リセット)	24
外部からリモート・コントロールする	24
資料	25
故障かな?と思ったら	25
ブロック・ダイアグラム	26
端子仕様	28
アナログ・ビデオ入力端子	28
RS-232C 端子	28
AUDIO INPUT / OUTPUT 端子	29
主な仕様	30
外形寸法図	31

※本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」(P.3)と「使用上のご注意」(P.5)をよくお読みください。

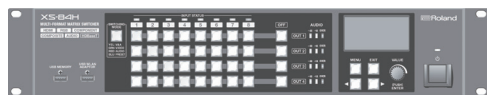
また、本機の優れた機能を十分ご理解いただくためにも、取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書は必要なときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。

※本書では、XS-84H のイラストを使って操作を説明します。「XS-84H のみ」のように機種が明記されていない内容は、XS-82H/XS-83H も共通です。

同梱物の確認

本機には、以下の物が同梱されています。すべてそろっているか確認してください。同梱物に不足があった場合は、お買い上げ店までご連絡ください。

本体



※ 外観は、モデルごとに異なります。

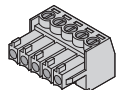
電源コード (2P-3P 変換器付き)



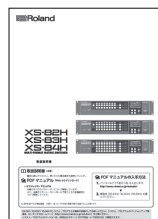
ゴム足 (5個)



ユーロブロック・プラグ (12個)



取扱説明書



ローランド ユーザー登録カード





保証書



安全上のご注意

マークについて

本機に表示されているマークには、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れがあります。 キャビネットをあけないでください。	
注意：感電防止のため、パネルやカバーをはずさないでください。本機の内部には、お客様が修理／交換できる部品はありません。修理は、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに依頼してください。		





このマークは、本機の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。






このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・傷害を防止するには

⚠ 警告と ⚠ 注意の意味について

 警告	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。
 注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表しています。

図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表しています。具体的な注意内容は、△の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘は、禁止（してはいけないこと）を表しています。具体的な禁止内容は、⊘の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表しています。
	●は、強制（必ずすること）を表しています。具体的な強制内容は、●の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

----- 以下の指示を必ず守ってください -----

⚠ 警告

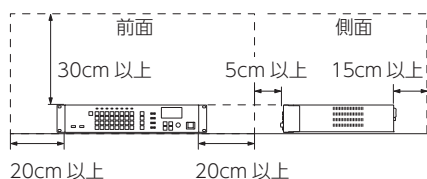
完全に電源を切るときは、コンセントからプラグを抜く

電源スイッチを切っても、本機は主電源から完全に遮断されてはいません。完全に電源を切る必要があるときは、本機の電源スイッチを切ったあと、コンセントからプラグを抜いてください。そのため、電源コードのプラグを差し込むコンセントは、本機にできるだけ近い、すぐ手の届くところのものを使用してください。



スペースを確保して設置する

本機は多少発熱するため、下記のスペースを確保して使用してください。



分解や改造をしない

取扱説明書に書かれていないことはしないでください。故障の原因になります。



⚠ 警告

個人で修理や部品交換はしない

必ずお買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。



次のような場所で使用や保管はしない

- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- 湯気や油煙が当たる場所
- 塩害の恐れがある場所
- 雨に濡れる場所
- ほこりや砂ぼこりの多い場所
- 振動や揺れの多い場所



不安定な場所に設置しない

転倒や落下によって、けがをする恐れがあります。



電源プラグは AC100V の電源コンセントに差し込む

電源プラグは、必ず交流（AC）100V の電源コンセントに差し込んでください。



⚠ 警告

付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



電源コードを傷つけない

火災や感電の原因になります。



大音量で長時間使用しない

大音量で長時間使用すると、難聴になる恐れがあります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。



異物や液体を入れない、液体の入った容器を置かない

本機に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。また、この機器の上に液体の入った容器（花瓶など）を置かないでください。ショートや誤動作など、故障の原因となることがあります。



警告

異常や故障が生じたときは電源を切る

次のような場合は、直ちに電源を切って電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに修理を依頼してください。



- 電源コードが破損したとき
- 煙が出たり、異臭がしたりしたとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
- 機器が（雨などで）濡れたとき
- 機器に異常や故障が生じたとき

落としたり、強い衝撃を与えたりしない

破損や故障の原因になります。



タコ足配線はしない

発熱、発火する恐れがあります。



海外でそのまま使用しない

海外で使用する場合は、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。



電源コードのアースを確実に取り付ける

電源コードのアースを確実に取り付けてください。感電の恐れがあります (P.12)。



注意

風通しのよい場所に設置する

本機は、風通しのよい、正常な通気が保たれている場所に設置して、使用してください。



電源コードはプラグを持って抜く

断線を防ぐため、電源コードを機器本体やコンセントから抜くときは、必ずプラグを持ってください。



電源プラグを定期的に掃除する

電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりがたまると、火災や感電の原因になります。



定期的に電源プラグを抜き、乾いた布でゴミやほこりを拭き取ってください。

長時間使用しないときは電源プラグを抜く

万一故障したとき、火災の原因になります。



電源コードやケーブルは煩雑にならないように配線する

足に引っかけると、本機の落下や転倒などにより、けがの原因になることがあります。



上に乗ったり、重いものを置いたりしない

転倒や落下によって、けがをする恐れがあります。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因になります。



移動するときはすべての接続をはずす

本機を移動するときは、電源プラグをコンセントから抜き、外部機器との接続をはずしてください。



お手入れするときは電源プラグをコンセントから抜く

コンセントから抜いておかないと感電の原因になります。



落雷の恐れがあるときは電源プラグをコンセントから抜く

コンセントから抜いておかないと故障や感電の原因になります。



注意

ファンタム電源の取り扱いについて

ファンタム電源供給に必要なコンデンサー・マイクを接続したとき以外は、ファンタム電源を必ずオフにしてください。ダイナミック・マイクやオーディオ再生装置などにファンタム電源を供給すると故障の原因になります。マイクの仕様については、お使いのマイクの取扱説明書をお読みください。



- 本機のファンタム電源：
DC 48V、14mA Max

使用上のご注意

電源について

- 本機を、インバーター制御の製品やモーターを使った電気製品（冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコンなど）と同じコンセントに接続しないでください。電気製品の使用状況によっては、電源ノイズで本機が誤動作したり、雑音が発生したりすることがあります。電源コンセントを分けることが難しい場合は、電源ノイズ・フィルターを取り付けてください。

設置について

- 本機の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、本機との間隔や方向を変えてください。
- 本機をテレビやラジオの近くで動作させると、テレビ画面に色ムラが出たりラジオから雑音が出たりすることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 本機の近くで携帯電話などの無線機器を使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、無線機器を本機から遠ざけるか、電源を切ってください。
- 直射日光の当たる場所や発熱する機器の近く、閉め切った車内などに放置しないでください。変形、変色することがあります。
- 極端に温湿度の違う場所に移動すると、内部に水滴が付く（結露する）ことがあります。そのまま使用すると故障の原因になります。数時間放置して、結露がなくなってから使用してください。
- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。ゴム足の下にフェルトなどの布を敷くと、安心してお使いいただけます。この場合、本機が滑って動いたりしないことを確認してからお使いください。
- 本機の上に液体の入った容器などを置かないでください。また、表面に付着した液体は、速やかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

お手入れについて

- 通常のお手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、固く絞った布で汚れを拭き取ってください。汚れが激しいときは、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 変色や変形の原因となる、ベンジン、シンナー、アルコール類は使用しないでください。

修理について

- お客様が本機または付属品を分解（取扱説明書に指示がある場合を除く）、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合があります。
- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリ一部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとでも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- ケーブルを抜くときは、ショートや断線を防ぐため、プラグ部分を持って引き抜いてください。
- 本機は多少発熱することがありますが、故障ではありません。
- 周囲に迷惑がかからないように、音量に十分注意してください。
- 輸送や引っ越しをするときは、本機を緩衝材などで十分に梱包してください。そのまま移動すると、傷、破損、故障の原因になります。
- 本機が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄するときは、各地域のゴミの分別基準に従ってください。
- 本機を使用すると、極めて速いスピードでの映像切り替えや映像効果のオン/オフが可能です。そのような映像を見ると、体調によっては頭痛をもよおしたり気分が悪くなったりする可能性があります。本機を用いて、このような健康を害する恐れのある映像を制作しないでください。あなた自身もしくは他の視聴者の健康が害されても、弊社は一切の責任を負いません。

外部メモリの取り扱い

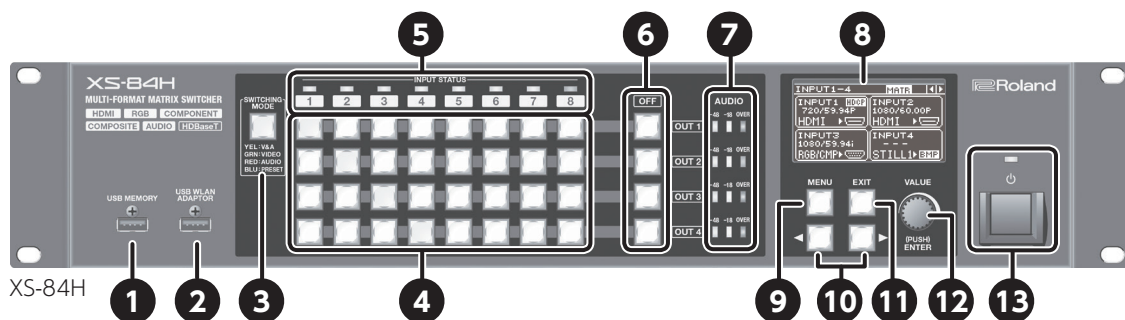
- 外部メモリを使うときは次の点に注意してください。また、外部メモリに付属の注意事項を守ってお使いください。
- 読み込み中や書き込み中には取りはずさない。
- 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。

著作権／ライセンス／商標について

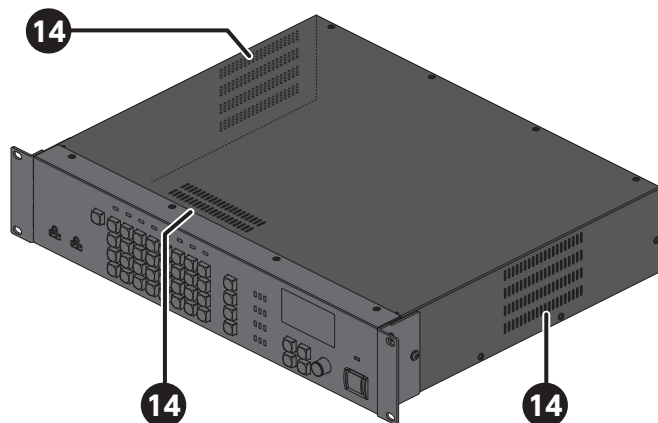
- 本製品は技術的保護手段による制約の一部または全部を受けずに録音、録画あるいは複製を行うことができます。これは本製品が音楽制作や映像制作を目的としており、他者の著作権を侵害しない作品（自作曲など）の録音、録画あるいは複製まで、制約を受けることがないよう設計されているためです。
- MMP (Moore Microprocessor Portfolio) はマイクロプロセッサのアーキテクチャーに関する TPL (Technology Properties Limited) 社の特許ポートフォリオです。当社は、TPL 社よりライセンスを得ています。
- Roland は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 文中記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。

各部の名称とはたらき

フロント／トップ／サイド・パネル

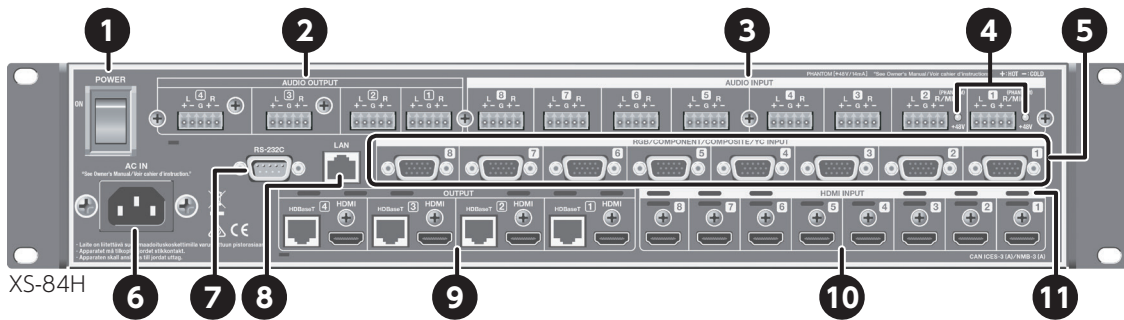


番号	名称	説明	ページ										
1	USB MEMORY 端子	USB メモリーを接続します。設定の保存や読み込み、静止画の読み込みをするときに使います。	P.17 P.23										
2	USB WLAN ADAPTOR 端子	ワイヤレス USB アダプター (別売) を接続して、iPad を無線 LAN で接続します。 iPad アプリケーション [XS-80H Remote] から本機をリモート・コントロールするときに使います。 ※ ワイヤレス USB アダプターは、ONKYO UWF-1、または Roland WNA1100-RL をお使いください。	P.24										
3	[SWITCHING MODE] ボタン	クロス・ポイント選択ボタン (4) の動作モードを切り替えます。ボタンを押すたびに、映像 & 音声連動モード ⇒ 映像独立モード ⇒ 音声独立モード ⇒ プリセット・モードの順に切り替わります。 動作モードは、ボタンの点灯色で確認できます。 ・ 黄点灯： 映像 & 音声連動モード ・ 緑点灯： 映像独立モード ・ 赤点灯： 音声独立モード ・ 青点灯： プリセット・モード	P.15 P.23										
4	クロス・ポイント選択ボタン	[SWITCHING MODE] ボタン (3) で選んだ動作モードに応じて、以下のように機能します。 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>動作モード</th> <th>クロス・ポイント選択ボタンのはたらき</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>映像 & 音声連動モード</td> <td>映像 / 音声チャンネルのクロス・ポイントを切り替えます。動作モードに応じて、映像と音声を連動させて切り替えるほか、映像のみ、または音声のみを独立して切り替えます。</td> </tr> <tr> <td>映像独立モード</td> <td>ボタンの横方向が入力チャンネル、縦方向が出力チャンネルになります。現在、選ばれている音声 / 映像チャンネルは、ボタンの点灯色で確認できます。 ・ 黄点灯： 映像チャンネルと音声チャンネル</td> </tr> <tr> <td>音声独立モード</td> <td>・ 緑点灯： 映像チャンネルのみ ・ 赤点灯： 音声チャンネルのみ</td> </tr> <tr> <td>プリセット・モード</td> <td>メモリ番号選択ボタンとして機能します。プリセットとして保存した設定を呼び出します。</td> </tr> </tbody> </table>	動作モード	クロス・ポイント選択ボタンのはたらき	映像 & 音声連動モード	映像 / 音声チャンネルのクロス・ポイントを切り替えます。動作モードに応じて、映像と音声を連動させて切り替えるほか、映像のみ、または音声のみを独立して切り替えます。	映像独立モード	ボタンの横方向が入力チャンネル、縦方向が出力チャンネルになります。現在、選ばれている音声 / 映像チャンネルは、ボタンの点灯色で確認できます。 ・ 黄点灯： 映像チャンネルと音声チャンネル	音声独立モード	・ 緑点灯： 映像チャンネルのみ ・ 赤点灯： 音声チャンネルのみ	プリセット・モード	メモリ番号選択ボタンとして機能します。プリセットとして保存した設定を呼び出します。	P.15 P.23
動作モード	クロス・ポイント選択ボタンのはたらき												
映像 & 音声連動モード	映像 / 音声チャンネルのクロス・ポイントを切り替えます。動作モードに応じて、映像と音声を連動させて切り替えるほか、映像のみ、または音声のみを独立して切り替えます。												
映像独立モード	ボタンの横方向が入力チャンネル、縦方向が出力チャンネルになります。現在、選ばれている音声 / 映像チャンネルは、ボタンの点灯色で確認できます。 ・ 黄点灯： 映像チャンネルと音声チャンネル												
音声独立モード	・ 緑点灯： 映像チャンネルのみ ・ 赤点灯： 音声チャンネルのみ												
プリセット・モード	メモリ番号選択ボタンとして機能します。プリセットとして保存した設定を呼び出します。												
5	INPUT STATUS インジケータ	入力されている映像信号の種類を表示します。 ・ 青点灯： HDMI 信号 ・ 赤点灯： アナログ映像信号 (RGB / コンポーネント、コンポジット、YC) ・ 白点灯： 静止画 ・ 消灯： 信号の入力なし	P.15										
6	[OFF] ボタン	出力映像にフェードをかけて、単色 (指定可) の映像を出力します。映像が完全にフェード・アウトすると、[OFF] ボタンが点灯します。	P.20										
7	AUDIO レベル・メーター	出力チャンネルの音量レベルを表示します。	P.22										
8	ディスプレイ	入力 / 出力映像の情報やメニューなどを表示します。	P.14										
9	[MENU] ボタン	メニューを表示します。	P.13										



番号	名称	説明	ページ
10	[◀] [▶] (カーソル) ボタン	<ul style="list-style-type: none"> メニューの表示中、カーソルの位置を移動します。また、メニュー項目によっては、別チャンネルなどの設定画面に移動します。 ディスプレイのトップ画面の表示モードを切り替えます。 	P.13 P.14
11	[EXIT] ボタン	メニューを閉じます。下の階層のメニューに移動しているときは、上の階層のメニューに戻します。	P.13
12	[VALUE] つまみ	メニュー項目の選択や設定の変更をします。[VALUE] つまみを押すと、選んだメニュー項目や変更した設定を確定します。	P.13
13	電源インジケータ	電源の状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 赤点灯：スタンバイ状態 緑点灯：電源オン状態 消灯：主電源オフ状態 	P.13
	電源ボタン	電源をオン/スタンバイ状態にします。 ※ リア・パネルの [POWER] (主電源) スイッチが「オン」のときのみ有効となります。	
14	冷却ファン排気口	本機内部の温度上昇を抑えるために、内部の熱を放出します。 ご注意! 冷却ファン排気口をふさがないでください。排気口をふさいでしまうと本機内部の温度が上昇し、熱によって故障する恐れがあります。	—

リア・パネル



番号	名称	説明	ページ
1	[POWER] (主電源) スイッチ	主電源をオン/オフします。 主電源がオンになると、フロント・パネルの電源ボタンで電源のオン/スタンバイ操作ができるようになります。	P.13
2	AUDIO OUTPUT 端子	アナログ・オーディオ信号を出力する 5P ユーロブロック端子です。録画機器やパワー・アンプ、スピーカーなどを接続します。 ※ 接続には、付属のユーロブロック・プラグをお使いください (P.9)。	P.11
3	AUDIO INPUT 端子	アナログ・オーディオ信号を入力する 5P ユーロブロック・タイプの端子です。オーディオ機器やマイクなどを接続します。 ※ 接続には、付属のユーロブロック・プラグをお使いください (P.9)。 ※ AUDIO INPUT 端子 1、2 からは、ファンタム電源 (+48V) を供給することができます。	P.11
4	ファンタム電源インジケータ	ファンタム電源 (+48V) がオンになると、インジケータが点灯します。	P.11
5	アナログ・ビデオ INPUT 端子 (RGB/COMPONENT/COMPOSITE/YC INPUT 端子)	アナログ・ビデオ信号を入力する D-sub 15 ピン・タイプの端子です。RGB 信号の他、変換ケーブルを使用することで、コンポーネントやコンポジット、YC (S ビデオ) 信号を入力できます。ビデオ機器やパソコンなどを接続します。 ※ 映像を入力するには、入力映像チャンネルごとに、映像信号の種類 (RGB /コンポーネント、コンポジット、YC) を設定する必要があります。	P.10
6	AC IN 端子	付属の電源コードを接続します。	P.12
7	RS-232C 端子	リモート・コントロール用の機器 (RS-232C 対応のパソコンなど) を接続し、本機をリモート・コントロールします。	P.24
8	LAN 端子	パソコンやネットワーク機器と接続し、本機をリモート・コントロールします。	P.24
9	HDMI OUTPUT 端子	HDMI 信号を出力します。HDMI 入力端子を持つ外部ディスプレイなどを接続します。 ※ 同じチャンネルの HDMI 出力端子と HDBaseT 出力端子の両方から、同時に映像を出力することはできません。	P.10 P.17
	HDBaseT OUTPUT 端子	HDBaseT 信号を出力します。HDBaseT 入力端子を持つプロジェクターなどを接続します。 ※ 接続には、Cat5e (カテゴリー 5e) 以上のシールド付き LAN ケーブルをお使いください。	
10	HDMI INPUT 端子	HDMI 信号を入力します。HDMI 出力端子を持つビデオ機器を接続します。 ※ 映像を入力するには、入力映像チャンネルごとに、映像信号の種類 (HDMI) を設定する必要があります。	P.10
11	冷却ファン排気口	本機内部の温度上昇を抑えるために、内部の熱を放出します。 ご注意! 冷却ファン排気口をふさがないでください。排気口をふさいでしまうと本機内部の温度が上昇し、熱によって故障する恐れがあります。	—

設置と準備

ラック・マウント時のご注意

※ 本機をラックなどへマウントするときは、効率のよい冷却をするため、下記の点にご注意ください。

- 通気性のよい場所に設置してください。
- 本機のトップ/リア/サイド・パネルある冷却ファン排気口をふさがないようにしてください。
- 密閉タイプのラックへのマウントは避けてください。ラック内の暖まった空気を排出できないため、本体内に暖まった空気を吸入することになり、効率のよい冷却ができません。
- ラック背面を開放できない場合は、暖かい空気がたまるラック後面上部に、排気口または排気ファンを設けてください。
- 移動用ケース（ポータブル・ラック）などにマウントする場合は、ケースの前面および背面のふたをはずし、本機の前面と背面をふさがないようにしてください。

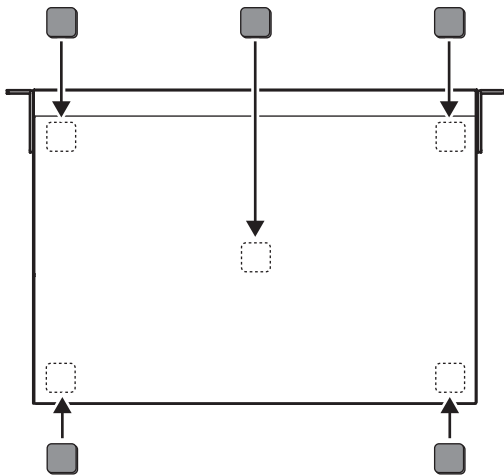
※ ラックなどへ取り付けるときは、ラック・マウント・ブラケット（本体に付属）のネジ穴に付いている取り付け用ネジをお使いください。また、指などをはさまないようにご注意ください。

※ 「使用上のご注意」の「設置について」(P.5) もあわせてお読みください。

ゴム足を取り付ける

本機をラックなどにマウントせずを使用するときは、必要に応じて付属のゴム足（5個）を取り付けてください。

1. ゴム足の両面テープをはがし、図の位置に貼り付ける。



ユーロブロック・プラグにケーブルを接続する

付属のユーロブロック・プラグにケーブルを取り付け、AUDIO INPUT/OUTPUT 端子に接続します。

1. ケーブルを準備する。

ケーブル先端の被覆を 5mm ほど剥ぎ取り、芯線をしっかりとよじります。

※ 電磁ノイズなどのトラブルを回避するため、シールド付きケーブルを推奨します。



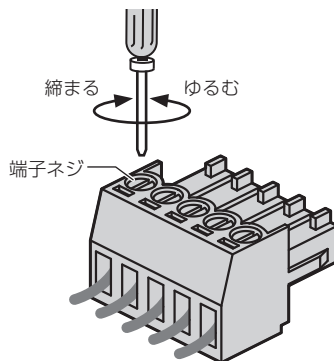
ご注意!

ケーブルの被覆を剥がした部分は、はんだ付けしないでください。

2. ユーロブロック・プラグにケーブルを取り付ける。

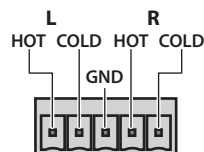
市販のマイナス・ドライバーで端子ネジをゆるめます。

手順 1 で準備したケーブルを差し込み、マイナス・ドライバーで端子ネジを締め付けて固定します。



配線時のご注意

AUDIO INPUT / OUTPUT 端子は、下図のように配線されています。



バランス接続またはアンバランス接続に応じて、ケーブルを正しく配線してください。

※ 配線方法は、「AUDIO INPUT / OUTPUT 端子」(P.29) をご覧ください。

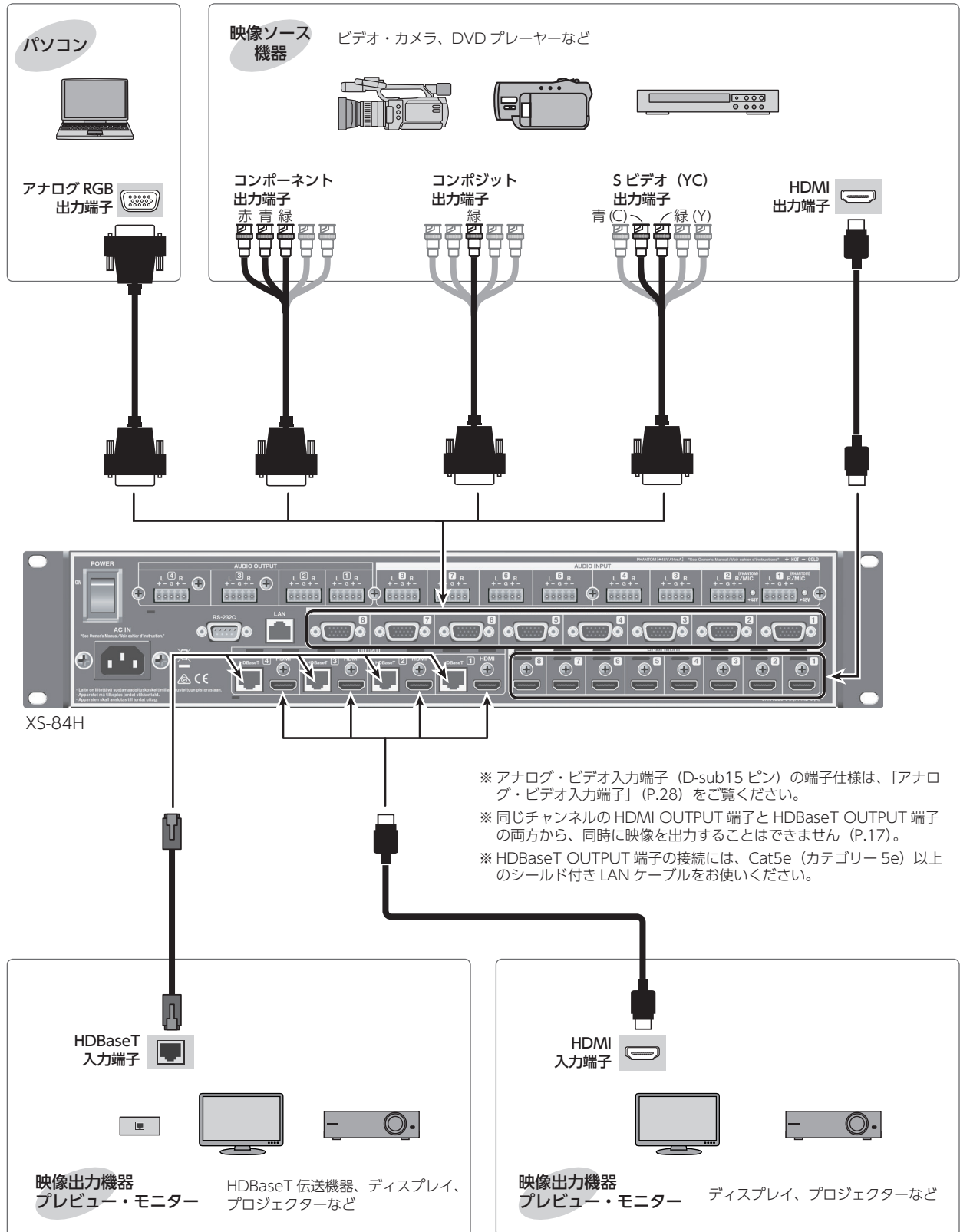
3. ユーロブロック・プラグを本機の AUDIO INPUT / OUTPUT 端子に装着する。

外部機器の接続

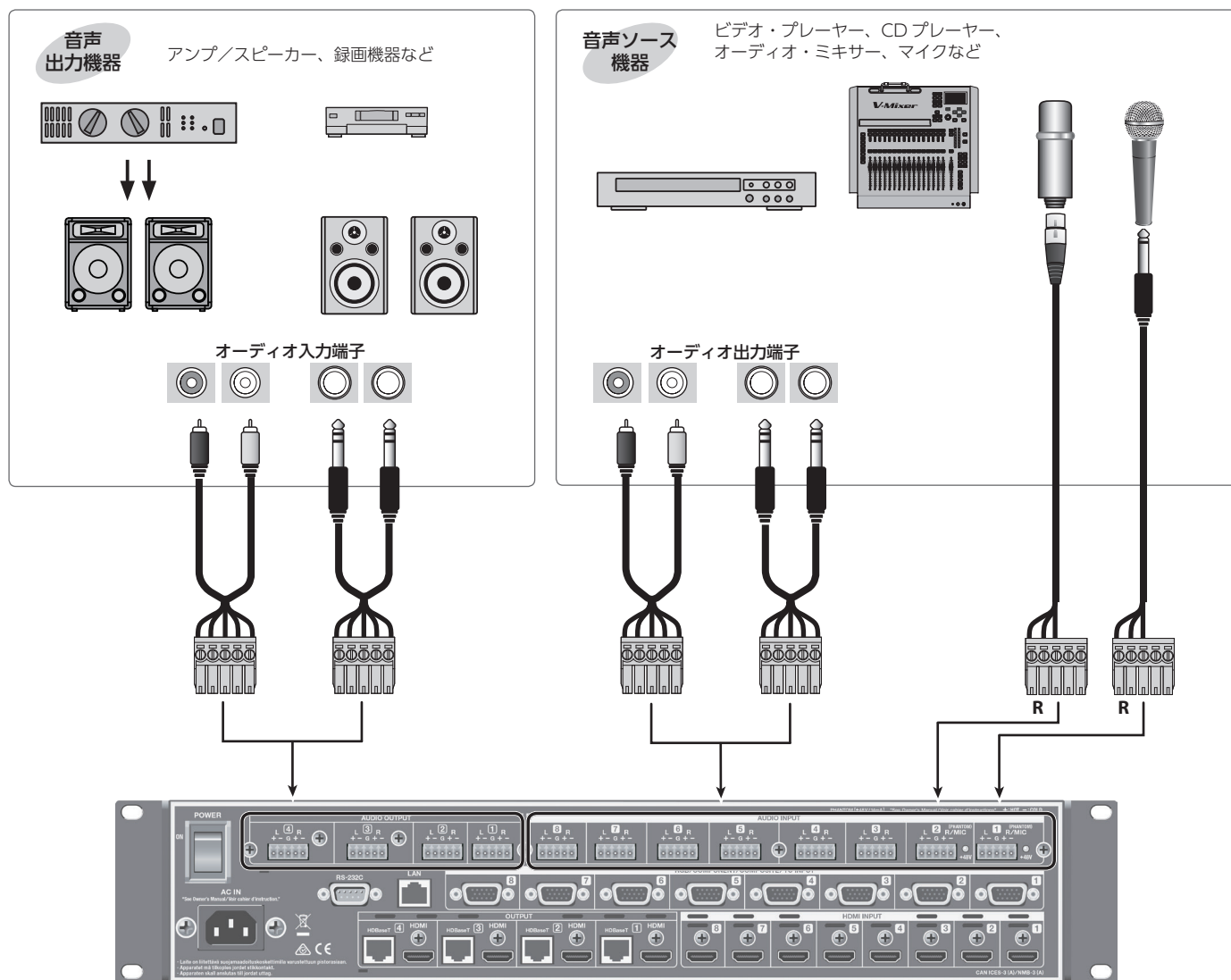
- ※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞りと、すべての機器の電源を切ってください。
- ※ お使いの機器のコネクター形状に合ったケーブルおよび変換プラグをご用意ください。

映像のソース機器／出力機器を接続する

接続後は、映像チャンネル 1～8 に入力する映像信号の種類を設定してください (P.15)。



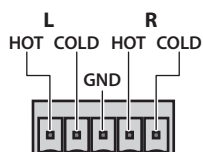
音声のソース機器／出力機器を接続する



XS-84H

※ マイクは、AUDIO INPUT 端子 1 または 2 の R チャンネル側に接続してください。配線方法は、「AUDIO INPUT / OUTPUT 端子」(P.29) をご覧ください。

※ AUDIO INPUT / OUTPUT 端子は、下図のように配線されています。接続する機器の配線をご確認のうえ、接続してください。



- 付属のユーロブロック・プラグへのケーブルの取り付け方法は、「ユーロブロック・プラグにケーブルを接続する」(P.9) をご覧ください。
- 配線方法は、「AUDIO INPUT / OUTPUT 端子」(P.29) をご覧ください。
- ※ マイクとスピーカーの位置によっては、ハウリング音（キーンという音）が出る場合があります。その場合は、以下のように対処してください。
 - マイクの向きを変える
 - マイクをスピーカーから遠ざける
 - 音量を下げる

ファンタム電源を使う

AUDIO INPUT 端子 1、2 (R チャンネルのみ) からは、ファンタム電源 (+48V) を供給することができます。ファンタム電源の必要なコンデンサー・マイクを使用するときは、ファンタム電源をオンにしてしてください。

[MENU] ボタン ⇒ [AUDIO INPUT] ⇒ [ANALOG-1] または [ANALOG-2] ⇒ [PHANTOM POWER] を [ON] に設定します。

ファンタム電源がオンになると、端子横のファンタム電源インジケータが点灯します。

【ご注意！】

ファンタム電源供給の必要なコンデンサー・マイクを接続したとき以外は、ファンタム電源を必ずオフにしてください。ダイナミック・マイクやオーディオ再生装置などにファンタム電源を供給すると故障の原因になります。マイクの仕様については、お使いのマイクの取扱説明書をお読みください。

(本機のファンタム電源：DC 48V、14mA Max)

電源コードを接続する



感電を防ぐために付属の電源コードを使用し、アースを確実に取り付けてください。

1. 付属の電源コードをリア・パネルの AC IN 端子に接続する。

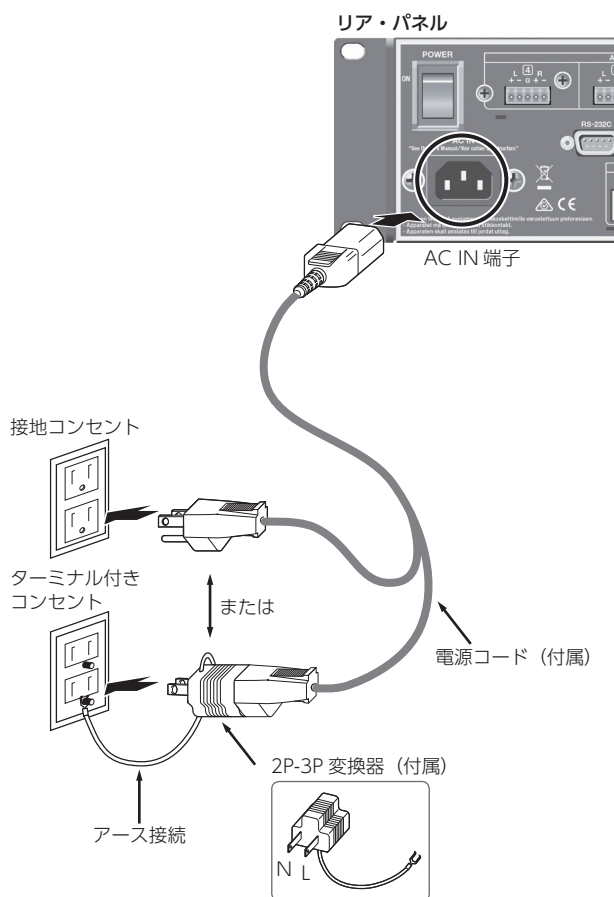
付属の電源コードには、感電と機器の損傷を防ぐためにアース用電極端子を加えた 3 端子のプラグがついています。

- コンセントが接地コンセント（端子穴が 3 個）の場合
そのままコンセントにプラグを差し込みます。
- コンセントがアースターミナル付きコンセント（端子穴が 2 個）の場合
プラグに 2P-3P 変換器を付け、アース接続をしてから、コンセントに差し込みます。

ご注意!

アースは必ず、電源プラグをコンセントに差し込む前に接続してください。

アースは必ず、電源プラグをコンセントから抜いてからはずしてください。



※ コンセントにアース端子がない場合は、電気工事店に接地工事を依頼してください。

基本の操作

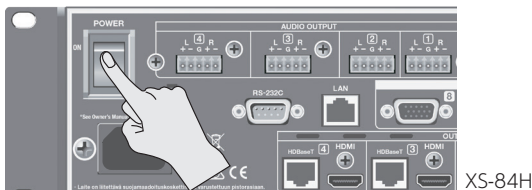
電源を入れる／切る

正しく接続したら (P.10)、必ず次の手順で電源を入れてください。手順を間違えると、誤動作をしたり故障したりすることがあります。

- ※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。
- ※ 静止画を読み込むと (P.17)、画像サイズと静止画の保存枚数に応じて、起動時間が長くなります。

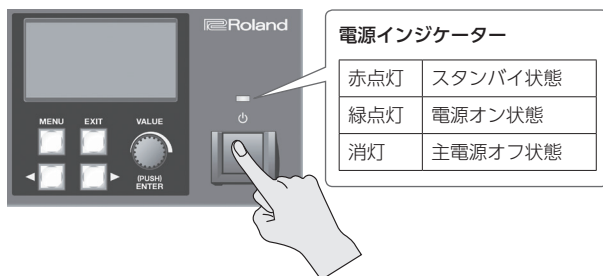
電源を入れる

1. すべての機器の電源がオフになっていることを確認する。
2. 本機のリア・パネルにある [POWER] (主電源) スイッチをオンにする。



フロント・パネルの電源インジケータが赤色に点灯し、スタンバイ状態になります。

3. 本機のフロント・パネルにある電源ボタンを押して、電源を入れる。



電源が入ると、電源インジケータが緑色の点灯に変わります。
※ 本機は回路保護のため、電源を入れてからしばらくは動作しません。

4. ソース機器の電源を入れる。
本機の INPUT 端子に接続したソース機器の電源を入れます。
5. 出力機器の電源を入れる。
プロジェクターなど、本機の OUTPUT 端子に接続した機器の電源を入れます。

電源を切る

1. 出力機器 ⇒ ソース機器の順に電源を切る。
2. 本機の電源がオンのときに、もう一度電源ボタンを押す。
電源インジケータが緑色から赤色の点灯に変わり、スタンバイ状態になります。
3. リア・パネルにある [POWER] (主電源) スイッチをオフにする。

電源インジケータが消灯し、電源が切れます。

- ※ 完全に電源を切る必要があるときは、本機の [POWER] (主電源) スイッチを切ったあと、コンセントからプラグを抜いてください。詳しくは「完全に電源を切るときは、コンセントからプラグを抜く」(P.3)をお読みください。

メニューを操作する

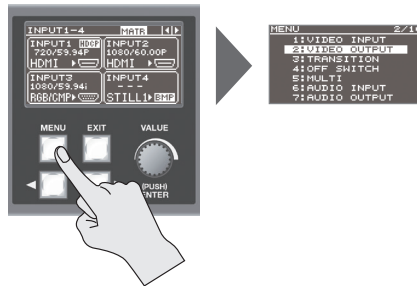
メニューを表示して、さまざまな設定をします。

メモ

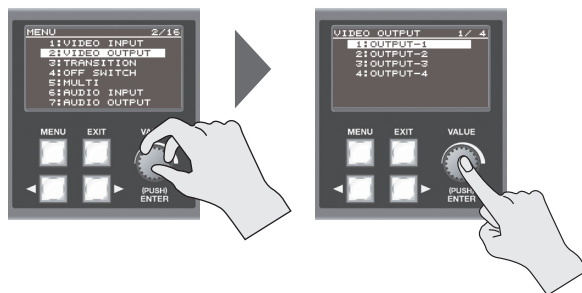
メニューの詳細は、以下のローランド・ホームページから本機の『リファレンス・マニュアル』(PDF)をダウンロードしてご覧ください。

<http://www.roland.co.jp/manuals/>

1. [MENU] ボタンを押して、メニューを表示させる。
メニューのカテゴリーが表示されます。



2. [VALUE] つまみを回してカテゴリーを選び、[VALUE] つまみを押して決定する。



選んだカテゴリーのメニュー項目が表示されます。

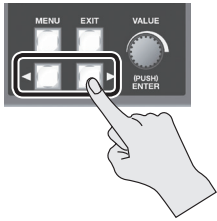
3. [VALUE] つまみを回してメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押して決定する。
 - メニュー階層が深い場合は、手順 3 を繰り返します。
4. [VALUE] つまみを回して、設定値を変更する。
 - 設定箇所が複数ある場合は、カーソル・ボタンでカーソルの位置を移動させて、設定を変更します。
 - 1 つ上の階層に戻さずに、カーソル・ボタンで別のチャンネルなどの設定画面に移動することができます。
 - [VALUE] つまみを押しながら回すと、設定値を大きく変えることができます。
5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。
[EXIT] ボタンを 1 回押すと、1 つ前の画面に戻ります。

メモ

[VALUE] つまみを押しながら [EXIT] ボタンを押すと、設定中のメニュー項目を工場出荷時の値に戻すことができます。

ディスプレイの表示を切り替える

本機のトップ画面には、5種類の表示モードがあります。カーソル・ボタンで表示モードを切り替えます。



インプット/アウトプット・ステータス画面

INPUT→OUTPUT	MATR	IN2→OUT2
IN1→OUT1 HDCP		1080/60.00P
720/59.94P		
HDMI ▶		HDMI ▶
IN4→OUT4 HDCP	IN8→OUT4 HDCP	
1080/59.94P	1080/59.94P	
HDMI ▶	HDMI ▶	

選択中の映像入力/出力チャンネルの情報を表示します。

XS-84H

インプット・ステータス画面 1/2

INPUT 1-4	MATR
INPUT1 HDCP	INPUT2
720/59.94P	1080/60.00P
HDMI ▶	HDMI ▶
INPUT3	INPUT4
1080/59.94i	--
RGB/CMP▶	STILL▶BMP

映像入力チャンネル1～4の情報を表示します。

インプット・ステータス画面 2/2

INPUTS 5-8	MATR
INPUT5	INPUT6 HDCP
480/59.94i	1080/59.94P
COMPOS▶	HDMI ▶
INPUT7	INPUT8
480/59.94i	1024×768/60
YC ▶	RGB/CMP▶

映像入力チャンネル5～8の情報を表示します。

アウトプット・ステータス画面

OUTPUT 1-4	MATR
OUTPUT1	OUTPUT2 HDCP
1024×768/60	1080/59.94i
HDMI ▶	HDBaseT
OUTPUT3	OUTPUT4
640×480/60	1920×1200/60
HDBaseT	HDMI

映像出力チャンネルの情報を表示します。

XS-84H

音声ボリューム・コントロール画面

AUDIO	[100]	MATR	1
1	2	3	4
5	6	7	8
OUT			

音声入力8チャンネルと出力1チャンネルのオーディオ・フェーダーを表示します。

オーディオ・フェーダーを操作して、音声入力/出力の音量を調整します (P.21、P.22)。

※ 必要に応じて、オーディオ・フェーダーにアサインする音声入力/出力チャンネルを変更します。詳しくは右段「オーディオ・フェーダーのアサインを変更する」をご覧ください。

メモ

- ディスプレイの明るさを調整できます。[MENU] ボタン ⇒ [SYSTEM] ⇒ [LCD BACKLIGHT] で調整してください。
- 起動時のディスプレイの表示モードは、[MENU] ボタン ⇒ [SYSTEM] ⇒ [TOP DISPLAY] で設定できます。

オーディオ・フェーダーのアサインを変更する

音声ボリューム・コントロール画面では、音声入力8チャンネルと音声出力1チャンネルのオーディオ・フェーダーを表示することができます。

必要に応じて、オーディオ・フェーダーにアサインする音声入力/出力チャンネルを変更します。

音声入力チャンネルをアサインする

1. [MENU] ボタン ⇒ [AUDIO CONTROL] ⇒ [FADER 1] ~ [FADER 8] で、各オーディオ・フェーダーにアサインする音声入力チャンネルを選ぶ。

[HDMI INPUT 1] ~ [HDMI INPUT 8] または [ANALOG INPUT 1] ~ [ANALOG INPUT 8] から選びます。

2. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

音声出力チャンネルをアサインする

1. [MENU] ボタン ⇒ [AUDIO CONTROL] ⇒ [OUTPUT FADER] で、オーディオ・フェーダーにアサインする音声出力チャンネルを選ぶ。

[OUTPUT 1] ~ [OUTPUT 4] (※機種により異なります)、または [ALL] から選びます。[ALL] を選ぶと、すべての音声出力チャンネルの音声を同時に調整することができます。

2. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

映像の操作

映像入力チャンネルごとに映像信号を設定する

映像入力チャンネルごとに、入力されている映像信号の種類を設定します。

ご注意!

入力映像信号の種類が正しく設定されていないと、映像が出力されません。

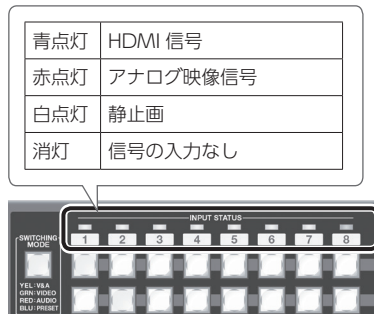
メモ

映像入力チャンネルに、USB メモリーから読み込んだ静止画を割り当てて、映像と同じように出力することができます。詳しくは、「読み込んだ静止画を出力する」(P.17)をご覧ください。

1. [MENU] ボタン ⇒ [VIDEO INPUT] ⇒ [INPUT-1] ~ [INPUT-8] ⇒ [INPUT SELECT] を選ぶ。
2. [VALUE] つまみを回して、映像信号を選ぶ。
 - 本体に読み込んだ静止画を出力したいときは、「STILL1」～「STILL4」を選びます (P.17)。
 - [SHARE] を選ぶと、各映像入力チャンネルで映像ソースを共有することができます。詳しくは、下記のコラム「映像ソースを共有する (SHARE)」をご覧ください。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

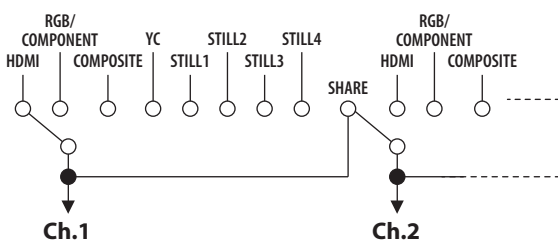
映像が入力されると、INPUT STATUS インジケータが点灯します。



映像ソースを共有する (SHARE)

映像入力チャンネルでは、映像ソースの共有ができます。映像ソースを共有すると、1つの映像ソースが複数の入力チャンネルに割り当てられます。

映像入力チャンネルで共有できるのは、1つ前のチャンネルの映像ソースです。たとえば、チャンネル1の映像をチャンネル2～8で共有するには、チャンネル2～8で [INPUT SELECT] を [SHARE] に設定します。



※音声ソースは、共有できません。

クロス・ポイントを切り替える

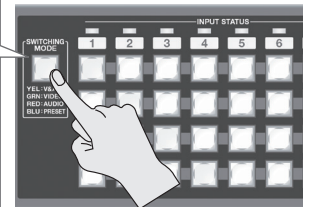
映像/音声のクロス・ポイントを切り替えます。

※ 本機の映像出力には、さまざまな出力モードがあります。ここでは、出力モードが [MATRIX] のときのクロス・ポイント切り替え手順を説明します。出力モードの設定方法は、「映像の出力モードを切り替える」(P.18) をご覧ください。

1. [MENU] ボタン ⇒ [TRANSITION] ⇒ [TIME] で映像の切り替えにかかる時間 (0.0 ~ 10.0sec) を設定する。瞬時に映像を切り替えたい場合は、「0.0sec」に設定します。※ [TIME] の設定は、フェード時間 (P.20) と共通です。
2. [SWITCHING MODE] ボタンを押して、クロス・ポイント選択ボタンの動作モードを切り替える。

インジケータと動作モード

黄点灯	映像 & 音声連動モード
緑点灯	映像独立モード
赤点灯	音声独立モード
青点灯	プリセット・モード



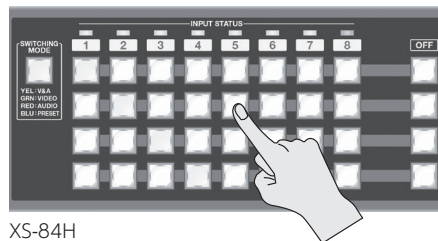
XS-84H

[SWITCHING MODE] ボタンを押すたびに、映像 & 音声連動モード ⇒ 映像独立モード ⇒ 音声独立モード ⇒ プリセット・モードの順に切り替わります。

ご注意!

[SWITCHING MODE] ボタンが青点灯 (プリセット・モード) のときは、クロス・ポイント選択ボタンがメモリ番号選択ボタンとして機能します (P.23)。

3. クロス・ポイント選択ボタンを押す。



XS-84H

ボタンの横方向が入力チャンネル、縦方向が出力チャンネルになります。

手順2で選んだ動作モードに応じて、音声/映像チャンネルのクロス・ポイントが切り替わります。

現在、選ばれている音声/映像チャンネルは、クロス・ポイント選択ボタンの点灯色で確認できます。

- 黄点灯: 映像チャンネルと音声チャンネル
- 緑点灯: 映像チャンネルのみ
- 赤点灯: 音声チャンネルのみ

メモ

映像切り替え時のフェード色を変更することができます。[MENU] ボタン ⇒ [OFF SWITCH] ⇒ [RED]、[GREEN]、[BLUE] で色を調整してください。フェード色の設定は、フェード (P.20) と共通です。

著作権保護 (HDCP) のかかっている映像を入力／出力する

本機では、著作権保護 (HDCP) のかかっている映像について、入力と出力でそれぞれ HDCP の有効／無効を設定することができます。工場出荷時、HDCP の入力／出力は有効に設定されています。HDCP の入力／出力を有効または無効にするには、以下の手順で設定を変更します。

入力する

1. [MENU] ボタン ⇒ [VIDEO INPUT] ⇒ [INPUT-1] ~ [INPUT-8] ⇒ [HDCP INPUT ENABLE] を設定する。

設定値	説明
ENABLE	著作権保護 (HDCP) のかかっている映像を入力できます。
DISABLE	著作権保護 (HDCP) のかかっている映像は入力できません。

2. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

ご注意!

著作権保護 (HDCP) のかかっていない映像を入力するとき、他チャンネルの HDCP の影響で音声が出力されない場合があります。

詳しくは、『リファレンス・マニュアル』(PDF) の「著作権保護 (HDCP) のかかっている映像を扱うときのご注意」をご覧ください。

出力する

1. [MENU] ボタン ⇒ [VIDEO OUTPUT] ⇒ [OUTPUT-1] ~ [OUTPUT-4] (*機種により異なります。*) ⇒ [HDCP OUTPUT ENABLE] を設定する。

設定値	説明
ENABLE	映像に著作権保護 (HDCP) をかけて出力します。 著作権保護 (HDCP) のかかっていない映像にも、HDCP をかけて出力します。
DISABLE	映像に著作権保護 (HDCP) をかけずに出力します。 ※ 著作権保護 (HDCP) のかかっている映像は、HDCP をかけずに出力することはできません。[DISABLE] に設定すると、黒映像が出力されます。

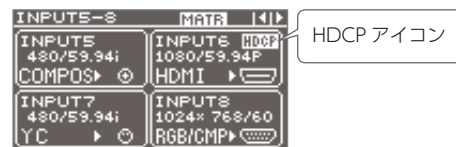
2. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

HDCP 対応機器を確認する

HDCP 入出力の設定が「ENABLE」のとき、接続機器の HDCP 対応状況は、ディスプレイのアウトプット・ステータス表示とインプット・ステータス表示で確認できます。

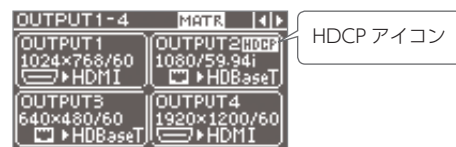
インプット・ステータス画面

著作権保護 (HDCP) された映像が入力されると、HDCP アイコンが表示されます。



アウトプット・ステータス画面

HDCP 対応機器が接続されると、HDCP アイコンが表示されます。



XS-84H

HDMI 出力と HDBaseT 出力を切り替える

工場出荷時、HDMI 出力と HDBaseT 出力の選択は、「AUTO」（接続を自動判別する設定）になっています。HDMI OUTPUT 端子と HDBaseT OUTPUT 端子の両方に機器が接続されている場合、HDMI 出力が優先されます。

OUTPUT 端子を指定して映像を出力させたい場合は、設定を変更してください。

ご注意!

同じチャンネルの HDMI OUTPUT 端子と HDBaseT OUTPUT 端子の両方から、同時に映像を出力することはできません。

1. [MENU] ボタン ⇒ [VIDEO OUTPUT] ⇒ [OUTPUT-1] ~ [OUTPUT-4]（※機種により異なります。） ⇒ [OUTPUT SELECT] を設定する。

設定値	説明
AUTO	接続されている端子を自動判別して、映像を出力します。HDMI OUTPUT 端子と HDBaseT OUTPUT 端子の両方に機器が接続されている場合は、HDMI 出力が優先されます。
HDMI	HDMI OUTPUT 端子からのみ、映像を出力します。
HDBaseT	HDBaseT OUTPUT 端子からのみ、映像を出力します。

2. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

読み込んだ静止画を出力する

映像入力チャンネルに、USB メモリーから読み込んだ静止画を割り当てて、映像と同じよう出力します。

静止画の対応フォーマット／解像度

読み込みできる静止画のファイル形式は、以下の通りです。

フォーマット	ビットマップ (.bmp)、24ビット、無圧縮
解像度	最大 1920 × 1200 ピクセル

ご注意!

静止画はスケーリングができません。最終フォーマットに合わせた解像度の静止画を用意してください。

静止画を読み込む

USB メモリーに保存した静止画を本体に読み込みます。本体には、4 つの静止画を保存することができます。

※USB メモリーをはじめて使うときは、必ず本機でフォーマットしてください。(P.24)。

1. USB メモリーのルート・ディレクトリーに、静止画を保存する。
静止画のファイル名は、半角英数字で 8 文字以内にし、必ず拡張子「.bmp」を付けてください。
2. USB MEMORY 端子に、静止画を保存した USB メモリーを接続する。
3. [MENU] ボタン ⇒ [USB MEMORY] ⇒ [LOAD STILL IMAGE] ⇒ 静止画の保存先 (1 ~ 4) を選び、[VALUE] つまみを押す。
[LOAD STILL IMAGE] ポップアップが表示されます。ポップアップには、USB メモリー内のファイル名が表示されます。
4. 読み込みたいファイルを選び、[VALUE] つまみを押す。
5. メッセージを確認し、[VALUE] つまみを押す。
(中止したいときは、[EXIT] ボタンを押す)
静止画が本体に読み込まれます。
6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

ご注意!

静止画を読み込むと、画像サイズと静止画の保存枚数に応じて、起動時間が長くなります。

静止画を出力する

本体に読み込んだ静止画を出力します。

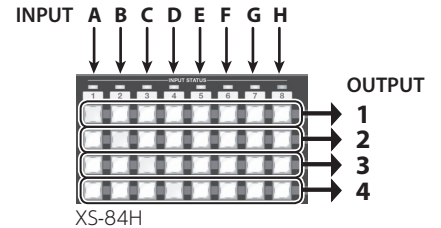
1. 映像入力チャンネルに静止画をアサインする。
「映像入力チャンネルごとに映像信号を設定する」(P.15) に従って操作し、手順 2 で [STILL1] ~ [STILL4] を選びます。
2. [STILL1] ~ [STILL4] をアサインした映像入力チャンネルのクロス・ポイント選択ボタンを押す (P.15)。
静止画が出力されます。

映像の出力モードを切り替える

本機の映像出力には、さまざまな出力モードが用意されています。出力モードを選ぶことで、映像出力のプリセットを呼び出します。
 ※ 映像出力のプリセットを呼び出したあとに、「VIDEO OUTPUT」の設定を変更することができます。ただし、「MODE」の設定によって、個別に変更できないメニュー項目があります。
 詳しくは、『リファレンス・マニュアル』(PDF)「メニュー一覧」の「VIDEO OUTPUT」をご覧ください。

1. [MENU] ボタン ⇒ 「MODE」 ⇒ 出力モードを選ぶ。

ここでは、右図のように入力映像を A ~ H、出力映像を 1 ~ 4 として、出力イメージを説明します。



設定値	説明	出力イメージ				ボタンの連動				
		OUTPUT 1	OUTPUT 2	OUTPUT 3 XS-83H/ XS-84Hのみ	OUTPUT 4 XS-84Hのみ	OUTPUT				点灯イメージ
						1	2	3	4	
MATRIX	クロス・ポイント選択ボタンで選んだ映像入力チャンネルを出力します (P.15)。					-	-	-	-	
MULTI-2 (*1)	映像を組み合わせ合わせて合成出力します。 レイヤーの位置は、固定です。					-	-	-	-	
MULTI-3 (*1)	 D C B A					-	-	-	-	
MULTI-4 (*1)						-	-	-	-	
SPAN-2	1つの映像を複数画面にまたがって表示させます。					○	○	-	-	
SPAN-3 (*2)						○	○	○	-	
SPAN-4 (*3)						○	○	○	○	
ROTATION-L1	映像を反時計方向に 90 度回転させて出力します。					○	○	○	○	
ROTATION-L2						○	○	○	○	
ROTATION-L3 (*2)						○	○	○	○	
ROTATION-L4 (*3)						○	○	○	○	

設定値	説明	出力イメージ				ボタンの連動				点灯イメージ
		OUTPUT 1	OUTPUT 2	OUTPUT 3 XS-83H/ XS-84Hのみ	OUTPUT 4 XS-84Hのみ	OUTPUT				
						1	2	3	4	
ROTATION-R1	映像を時計方向に 90 度回転させて出力します。					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
ROTATION-R2						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
ROTATION-R3 (*2)						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
ROTATION-R4 (*3)						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
4K-1 (*3)	クロス・ポイント選択ボタンを押すと、映像出力チャンネル 1～4 が同時に切り替わります。 映像入力チャンネル 1～4 と 5～8 をそれぞれセットにして、どのクロス・ポイント選択ボタン押しても、自動的に右図のようにクロス・ポイント選択ボタンが選ばれます。	OUTPUT 1		OUTPUT 2		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		OUTPUT 3		OUTPUT 4		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
4K-2 (*3)	<ul style="list-style-type: none"> 映像入力チャンネル 1～4 「4K-1」と同じ動作をします。 映像入力チャンネル 5～8 クロス・ポイント選択ボタンで選んだ 1 つの映像を 4 画面にまたがって表示させます。 	OUTPUT 1		OUTPUT 2		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		OUTPUT 3		OUTPUT 4		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

- (*1) ・ 合成出力されているチャンネルからは、同一の映像と音声出力されます。
 ・ **XS-82H/XS-83H** :
 クロス・ポイント選択ボタンで指定できないウィンドウの映像は、[MENU] ボタン⇒ [MULTI] ⇒ [SOURCE CH] で設定できます。
 ・ 各ウィンドウのサイズなどは、[MENU] ボタン⇒ [MULTI] で調整できます。

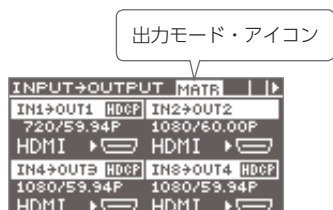
(*2) XS-83H/XS-84Hのみ。

(*3) XS-84Hのみ。

2. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

- 映像の上下反転や左右反転と組み合わせて、出力することができます。
 上下反転：[MENU] ボタン ⇒ [VIDEO INPUT] ⇒ [INPUT-1] ～ [INPUT-8] ⇒ [FLIP VERTICAL] を [ON] に設定します。
 左右反転：[MENU] ボタン ⇒ [VIDEO OUTPUT] ⇒ [OUTPUT-1] ～ [OUTPUT-4] (※機種により異なります) ⇒ [FLIP HORIZONTAL] を [ON] に設定します。
- 現在の出力モードは、トップ画面の出力モード・アイコンで確認できます。



出力映像にフェードをかける

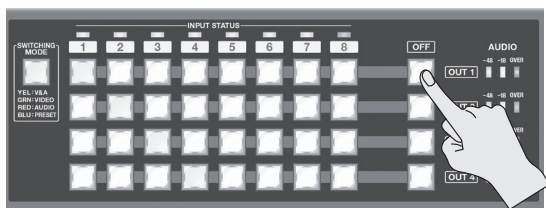
出力映像にフェードをかけます。

1. [MENU] ボタン ⇒ [TRANSITION] ⇒ [TIME] でフェード時間 (0.0 ~ 10.0sec) を設定する。

瞬時に単色映像に切り替えたい場合は、「0.0sec」に設定します。

※ [TIME] の設定は、映像切り替え (P.15) にかかる時間と共通です。

2. フェード・アウトさせたい映像出力チャンネルの [OFF] ボタンを押す。



XS-84H

手順 1 で設定した時間で、映像がフェード・アウトします。フェード中は、[OFF] ボタンが点滅します。完全にフェード・アウトすると、[OFF] ボタンが点灯に変わります。

3. フェード・インさせるには、もう一度 [OFF] ボタンを押す。

[OFF] ボタンが点滅し、映像の出力が始まります。完全にフェード・インすると、[OFF] ボタンが消灯します。

メモ

- フェード色を変更することができます。[MENU] ボタン ⇒ [OFF SWITCH] ⇒ [RED]、[GREEN]、[BLUE] で色を調整してください。フェード色の設定は、映像切り替え (P.15) と共通です。
- 工場出荷時、映像のフェード・アウト／インに連動させて、音声もフェード・アウト／インする設定になっています。音声を連動させない場合は、[MENU] ボタン ⇒ [OFF SWITCH] ⇒ [AUDIO FOLLOW] を [OFF] に設定してください。

音声の操作

マイク・ゲインを調整する

AUDIO INPUT 端子 1 または 2 の R チャンネル側に接続したマイクの入力感度を調整します。

メモ

- 入力感度は、AUDIO INPUT 端子 1、2 の R チャンネルのみ、調整できます。マイクは、AUDIO INPUT 端子 1 または 2 の R チャンネル側に接続してください。
- 工場出荷時、AUDIO INPUT 端子 1、2 は、ステレオ入力に設定されています。マイクを接続するときは、[MENU] ボタン ⇒ [AUDIO INPUT] ⇒ [ANALOG-1] または [ANALOG-2] ⇒ [MONO INPUT] を [ON] (モノラル入力) に設定してください。

1. マイクを接続した AUDIO INPUT 端子 1 または 2 の音量を [100 (0dB)] にする。

音量の調整には、次の 2 通りの方法があります。

- ディスプレイの表示を音声ボリューム・コントロールに切り替えて、チャンネル・フェーダーを [100 (0dB)] の位置まで上げます。
詳しい操作方法は、右段「オーディオ・フェーダーで音量を調整する」をご覧ください。



- [MENU] ボタン ⇒ [AUDIO INPUT] ⇒ [ANALOG-1] または [ANALOG-2] ⇒ [INPUT LEVEL] を [100(0dB)] に設定します。

2. [MENU] ボタン ⇒ [AUDIO INPUT] ⇒ [ANALOG-1] または [ANALOG-2] ⇒ [INPUT GAIN] を選ぶ。

3. [VALUE] つまみを反時計方向いっぱいまで回して、入力感度を絞る。

4. [VALUE] つまみを時計方向にゆっくり回して、入力感度を調整する。

実際に入力する音声を出しながら、[VALUE] つまみを回して、入力感度を上げて調整します。

5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

入力音声の音量バランスを調整する

本機に入力されている音声の音量バランスを調整します。

ご注意!

HDMI 接続をしても、映像入力チャンネルの設定で [HDMI] を選んでいないと (P.15)、HDMI 音声は入力されません。

オーディオ・フェーダーで音量を調整する

ディスプレイに表示されたオーディオ・フェーダーを操作して音量を調整します。

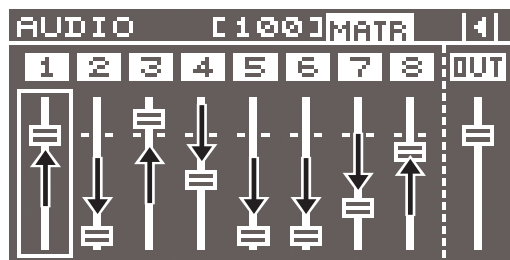
1. あらかじめディスプレイのオーディオ・フェーダーにアサインする音声入力チャンネルを設定しておく (P.14)。

2. カーソル・ボタンを押して、ディスプレイの表示を音声ボリューム・コントロールに切り替える (P.14)。

3. オーディオ・フェーダーを上げ下げして、各チャンネルの音量バランスを調整する。

[VALUE] つまみを回して、操作対象のオーディオ・フェーダー (1 ~ 8) を選び、[VALUE] つまみを押して確定します。
[VALUE] つまみを回して、入力チャンネルの音量を調整します。

もう一度 [VALUE] つまみを押すと、操作対象のオーディオ・フェーダーを選べるようになります。



メニューから音量を調整する

1. [MENU] ボタン ⇒ [AUDIO INPUT] ⇒ [HDMI-1 ~ 8]、[ANALOG-1 ~ 8] ⇒ [INPUT LEVEL] で、音量を調整する。

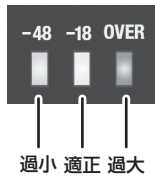
2. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

出力音声の音量を調整する

出力音声の音量を調整します。

音量を確認する

1. レベル・メーターで、出力音声の音量を確認する



「OVER」が点灯するようであれば、音量が過大です。
もっとも大きな音声が入力されたときに、「-18」が点灯する程度が適正です。

ご注意!

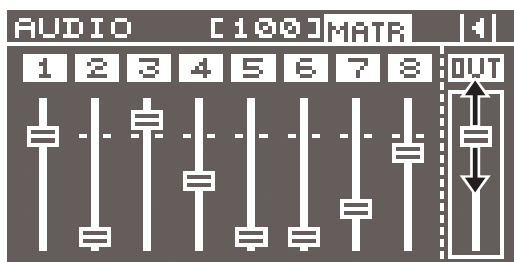
「-18」が点灯する程度に調整しても、スピーカー出力の音量が適正でない場合は、スピーカーやアンプで音量を調整してください。出力チャンネル・フェーダーで調節すると、歪みや音質劣化の原因となる場合があります。

オーディオ・フェーダーで音量を調整する

1. あらかじめディスプレイのオーディオ・フェーダーにアサインする音声出力チャンネルを設定しておく (P.14)。
2. カーソル・ボタンを押して、ディスプレイの表示を音声ボリューム・コントロールに切り替える (P.14)。
3. オーディオ・フェーダーを上げ下げして、音量を調整する。

[VALUE] つまみを回して、出力のオーディオ・フェーダーを選び、[VALUE] つまみを押して確定します。[VALUE] つまみを回して、出力チャンネルの音量を調整します。

もう一度 [VALUE] つまみを押すと、操作対象のオーディオ・フェーダーを選べるようになります。



メニューから音量を調整する

1. [MENU] ボタン ⇒ [AUDIO OUTPUT] ⇒ [OUTPUT-1] ~ [OUTPUT-4] (*機種により異なります。) ⇒ [OUTPUT LEVEL] で、音量を調整する。
2. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

その他の機能

設定を保存する／呼び出す（プリセット）

現在のクロス・ポイントや音声／映像の設定などをプリセットとして本体に保存し、必要なときに呼び出して使うことができます。本体には、32個のプリセットを保存することができます。

設定を保存する

1. [MENU] ボタン ⇒ [PRESET MEMORY] ⇒ [SAVE SETTING] ⇒ 保存先のプリセット番号(1～32)を選び、[VALUE] ボタンを押す。
2. メッセージを確認し、[VALUE] つまみを押す。
(中止したいときは、[EXIT] ボタンを押す。)
現在の設定がプリセットとして保存されます。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

以下のカテゴリーの設定は、プリセットごとに保存されません。本体に1セットだけ保存されます。

- EDID (DATA1～DATA8)
- RS-232C
- LAN
- WIRELESS LAN
- USB MEMORY
- SYSTEM

メニュー項目の設定後、メニューを閉じるタイミングで、本機の内部メモリーに保存されます。

USBメモリーに設定を保存する

USB端子に接続したUSBメモリーに、すべてのプリセットとシステムの設定を1つのファイルにまとめて保存することができます。

※USBメモリーをはじめて使うときは、必ず本機でフォーマットしてください。(P.24)。

設定を保存する

[MENU] ボタン ⇒ [USB MEMORY] ⇒ [SAVE PRESET] または [SAVE AS PRESET] を実行します。

設定を読み込む

[MENU] ボタン ⇒ [USB MEMORY] ⇒ [LOAD PRESET] ⇒ 読み込みたいファイルを選び、実行します。

設定を呼び出す

保存したプリセットを呼び出します。

プリセットを呼び出すとき、あらかじめ呼び出す設定内容を指定することで、登録したすべての設定を呼び出さずに、一部の設定だけを呼び出すことができます。

ご注意!

呼び出し前と後のプリセットで、映像の入力端子が切り替わったり、出力フォーマットが切り替わったりすると、出力映像が乱れる場合があります。

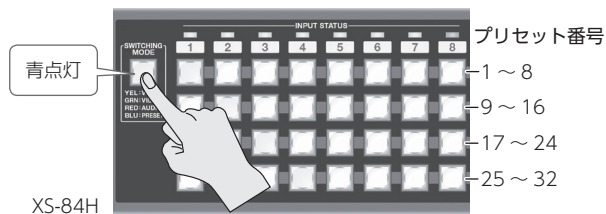
1. プリセットから呼び出す設定内容を指定する。

[MENU] ボタン ⇒ [PRESET MEMORY] ⇒ [RECALL SAFE] ⇒ [ON] に設定して [VALUE] つまみを押します。
[RECALL SAFE] ポップアップが表示されます。下記の項目ごとに設定を呼び出す (OFF) / 呼び出さない (ON) を指定します。

設定項目	説明
VIDEO INPUT	映像入力の設定、入力のEDID割り当ての設定
VIDEO OUTPUT	映像出力の設定
OUT RESOLUTION	出力解像度の設定
TRANSITION	映像の切り替わり時間/フェード時間の設定
OFF SWITCH	[OFF] スイッチの設定
MULTI	マルチ・ビューの設定
AUDIO INPUT	音声入力の設定
AUDIO OUTPUT	音声出力の設定
AUDIO CONTROL	音声ボリューム・コントロール画面のフェーダー・アサインの設定
MODE	出力モードの設定
CROSSPOINT	クロス・ポイント選択ボタンの設定

2. [SWITCHING MODE] ボタンを何回か押して、青色に点灯させる (プリセット・モード)。

クロス・ポイント選択ボタンには、以下のようにプリセット番号が割り当てられています。



※プリセットが保存されている番号のクロス・ポイント選択ボタンは、青色に点灯します。

※XS-82H/XS-83H: プリセット番号に該当するクロス・ポイント選択ボタンがないときは、[MENU] ボタン ⇒ [PRESET MEMORY] ⇒ [LOAD SETTING] でプリセット番号を指定して呼び出します。

3. 呼び出したいプリセット番号のクロス・ポイント選択ボタンを押す。

設定が呼び出されます。選択中のクロス・ポイント選択ボタンは、水色に点灯します。

メモ

起動時に、指定したプリセットを呼び出すこともできます。
[MENU] ボタン ⇒ [SYSTEM] ⇒ [STARTUP] で呼び出したいプリセット番号を指定してください。

USB メモリーをフォーマットする

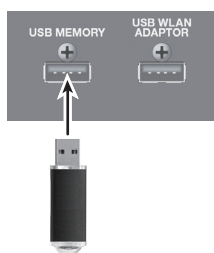
USB メモリーをはじめて使うときは、あらかじめ本機でフォーマットしておく必要があります。

ご注意!

- 本機でフォーマットされていない USB メモリーは、認識されません。
- フォーマットすると、USB メモリーに保存されているデータはすべて消去されます。必要なデータがある場合は、あらかじめパソコンなどにバックアップしてから、フォーマットしてください。

接続する

USB メモリーは、挿入方向や表裏に注意して、確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。



ご注意!

- ディスプレイに「Please wait...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。
- USB メモリーを接続してからデータの読み書きができるようになるまでに、時間がかかる場合があります。

フォーマットする

1. [MENU] ボタン ⇒ [USB MEMORY] ⇒ [FORMAT] を選び、[VALUE] つまみを押す。
2. メッセージを確認し、[VALUE] つまみを押す。
(中止したいときは、[EXIT] ボタンを押す)
USB メモリーのフォーマットが実行されます。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

設定を工場出荷時の状態に戻す (ファクトリー・リセット)

本機で設定した内容を工場出荷時の状態に戻します。

手順どおりに操作をしても、取扱説明書に記載されている内容と違う動作をするときは、ファクトリー・リセットを実行してみてください。

ご注意!

ファクトリー・リセットを実行すると、それまでに設定した内容やプリセット (P.23) の設定、読み込んだ静止画 (P.17) は、すべて失われます。

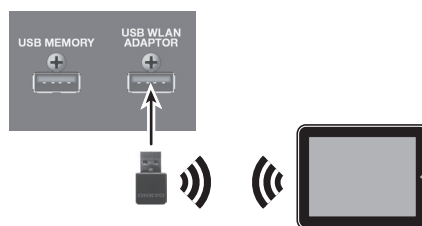
1. [MENU] ボタン ⇒ [SYSTEM] ⇒ [FACTORY RESET] を選び、[VALUE] つまみを押す。
2. メッセージを確認し、[VALUE] ボタンを押す。
(中止したいときは、[EXIT] ボタンを押す)
ファクトリー・リセットが実行されます。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

外部からリモート・コントロールする

iPad アプリケーション「XS-80H Remote」は、本機のシステム・プログラム・バージョン 1.1 以降から対応します。
システム・プログラムのバージョンは、[MENU] ボタン ⇒ [SYSTEM] ⇒ [VERSION] で確認できます。

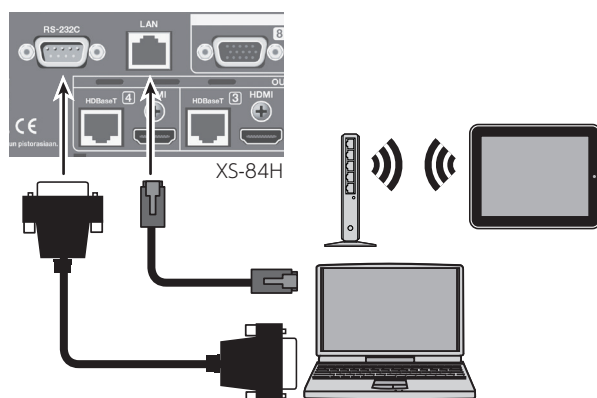
USB WLAN ADAPTOR 端子にワイヤレス USB アダプター (別売) を装着することで、iPad アプリケーションの「XS-80H Remote」から本機をリモート・コントロールすることができます。

※ ワイヤレス USB アダプターは、ONKYO UWF-1、または Roland WNA1100-RL をお使いください。



RS-232C 端子や LAN 端子を使用して、パソコンなど外部機器から本機をリモート・コントロールすることができます。

また、LAN 端子に接続した無線 LAN 親機を介して、iPad アプリケーションの「XS-80H Remote」から本機をリモート・コントロールすることもできます。



リモート・コントロールの詳細な操作方法は、以下のローランド・ホームページから『リファレンス・マニュアル』(PDF) をダウンロードしてご覧ください。

<http://www.roland.co.jp/manuals/>

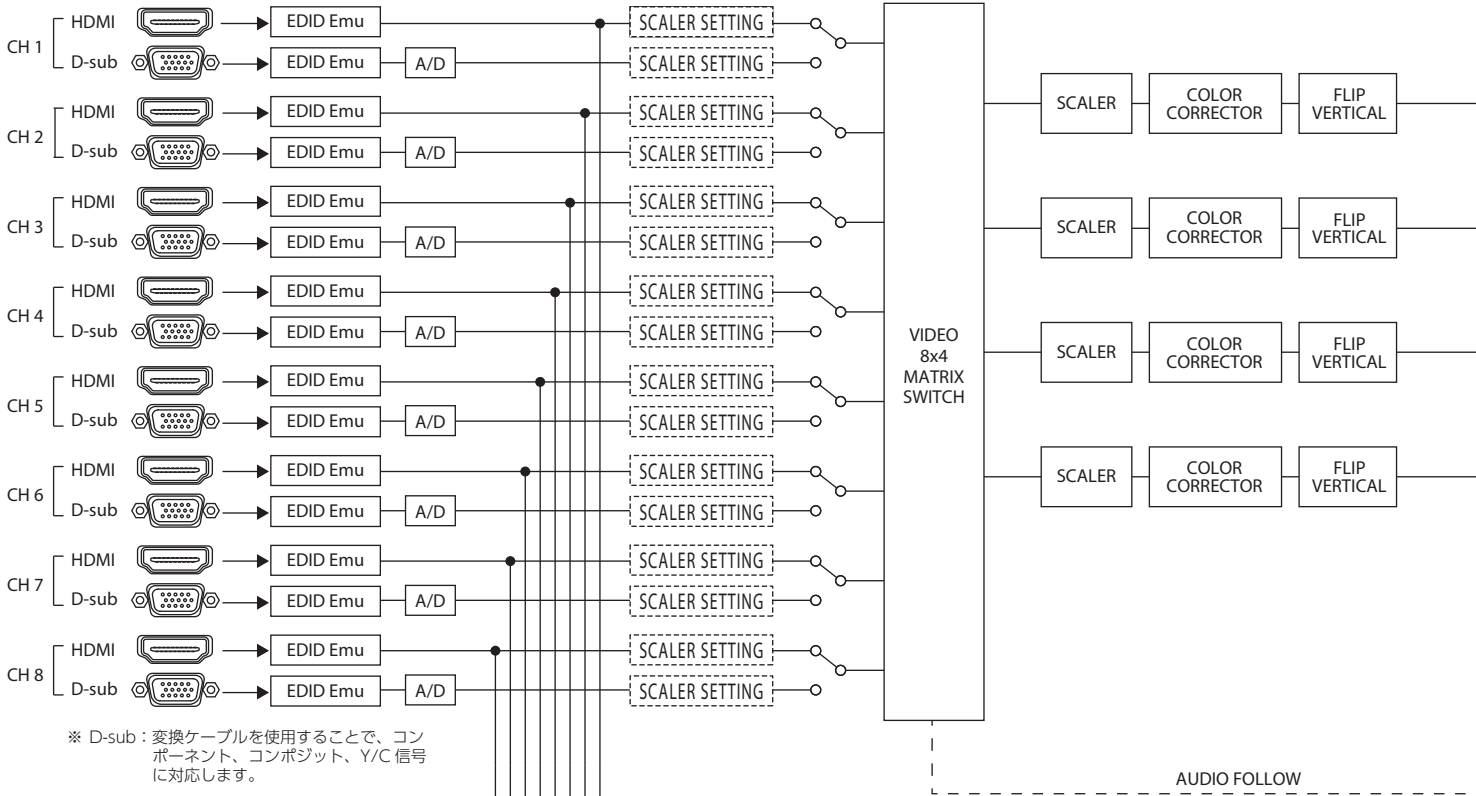
故障かな？と思ったら

症状	原因	対策	ページ
映像のトラブル			
映像が入力されない	映像入力チャンネルごとに、正しく映像信号の種類が設定されていますか？	映像入力チャンネルごとに映像信号を設定してください。 映像信号の種類が正しく設定されていないと、映像が表示されない場合や、正常な映像にならない場合があります。	P.15
	著作権保護（HDCP）のかかっている映像を入力していませんか？	著作権保護（HDCP）のかかっている映像を入力する場合は、[HDCP INPUT ENABLE] を [ENABLE] に設定してください。	P.16
映像が出力されない	出力解像度は正しく設定されていますか？	各出力チャンネルごとに出力解像度を設定してください。 [VIDEO OUTPUT] ⇒ [OUTPUT-1] ~ [OUTPUT-4] ⇒ [RESOLUTION] の設定を変更します。	—
	著作権保護（HDCP）のかかっている映像を出力していませんか？	著作権保護（HDCP）のかかっている映像信号を出力する場合は、[HDCP OUTPUT ENABLE] を [ENABLE] に設定してください。	P.16
		HDCP 対応モニターを使っているか確認してください。	—
	以下のすべての条件を満たす場合、マルチ・ビューの出力チャンネルは黒映像になります。 ・映像の出力モードを [MULTI-2] ~ [MULTI-4] に設定している。 ・出力チャンネルの [HDCP OUTPUT ENABLE] を [DISABLE] に設定している。 ・マルチ・ビューのウィンドウのいずれかに著作権保護（HDCP）のかかっている映像が入力されている。	—	
OUTPUT 端子（HDMI 出力端子または HDBaseT 出力端子）は正しく選ばれていますか？	同じチャンネルの HDMI 出力端子と HDBaseT 出力端子の両方から、同時に映像を出力することはできません。 工場出荷時、HDMI 出力と HDBaseT 出力の選択は、[AUTO]（接続を自動判別する設定）になっています。HDMI 出力端子と HDBaseT 出力端子の両方に機器が接続されている場合は、HDMI 出力が優先されます。 OUTPUT 端子を指定して映像を出力させたい場合は、[OUTPUT SELECT] の設定を変更してください。	P.17	
色がおかしい	入出力する映像のカラー・スペースと、本体で処理するカラー・スペースは合っていますか？	[VIDEO INPUT] の [COLOR SPACE]、[VIDEO OUTPUT] の [COLOR SPACE] の設定を変更してください。	—
		カラー・スペースは、機器によって DVI/HDMI の選択や、フォーマットの選択と連動していることがあります。この場合、入出力側の機器でカラー・スペースを変更すると症状が改善されることがあります。	
HDMI 出力をディスプレイに表示したとき、周囲が切れて表示される	ディスプレイの設定は合っていますか？	HDMI 信号の場合、ディスプレイによっては自動的にオーバー・スキャンすることがあります。ディスプレイの設定を変更してください。	—
音声のトラブル			
音声が出力されない 音声が小さい	接続しているアンプやスピーカーの音量が下がっていませんか？	適正な音量に調整してください。	—
	本機の音量が下がっていませんか？	各入力/出力音声を適正な音量に調整してください。	P.21 P.22
	[HDCP OUTPUT ENABLE] を [DISABLE] に設定している映像出力端子に、著作権保護（HDCP）のかかった信号が混ざった状態で送られていませんか？	著作権保護（HDCP）のかかっていない映像を入出力するとき、他チャンネルの HDCP の影響で音声が出力されない場合があります。 詳しくは、『リファレンス・マニュアル』（PDF）の「著作権保護（HDCP）のかかっている映像を扱うときのご注意」をご覧ください。 http://www.roland.co.jp/manuals/	—
	音声チャンネル 1、2 のゲイン（入力感度）が下がっていませんか？	音声チャンネル 1、2 は、入力感度が下がっていると音量を上げても音声が出力されません。[AUDIO INPUT] の [INPUT GAIN] で入力感度を調整してください。	P.21
	コンデンサー・マイクを接続していますか？	コンデンサー・マイクなど、ファンタム電源を必要とする機器を接続する場合は、[AUDIO INPUT] の [PHANTOM POWER] を [ON] に設定してください。	P.11
その他のトラブル			
USB メモリーが読めない	本機で USB メモリーをフォーマットしていますか？	USB メモリーをはじめて使うときは、必ず本機でフォーマットしてください。	P.24
	ローランドの USB メモリー以外を使っていませんか？	ローランドの USB メモリー以外を使用したときの動作は、保証できません。 市販の USB メモリーについて動作テストをしていますが、すべての USB メモリーの動作を保証するものではありません。USB メモリーのメーカーや種類によっては、正しく動作しないものがあります。	—
本体が極端に熱い	冷却ファンが停止していませんか？	直ちに使用を中止し、ローランドお客様相談センターにご連絡ください。	—

ブロック・ダイアグラム

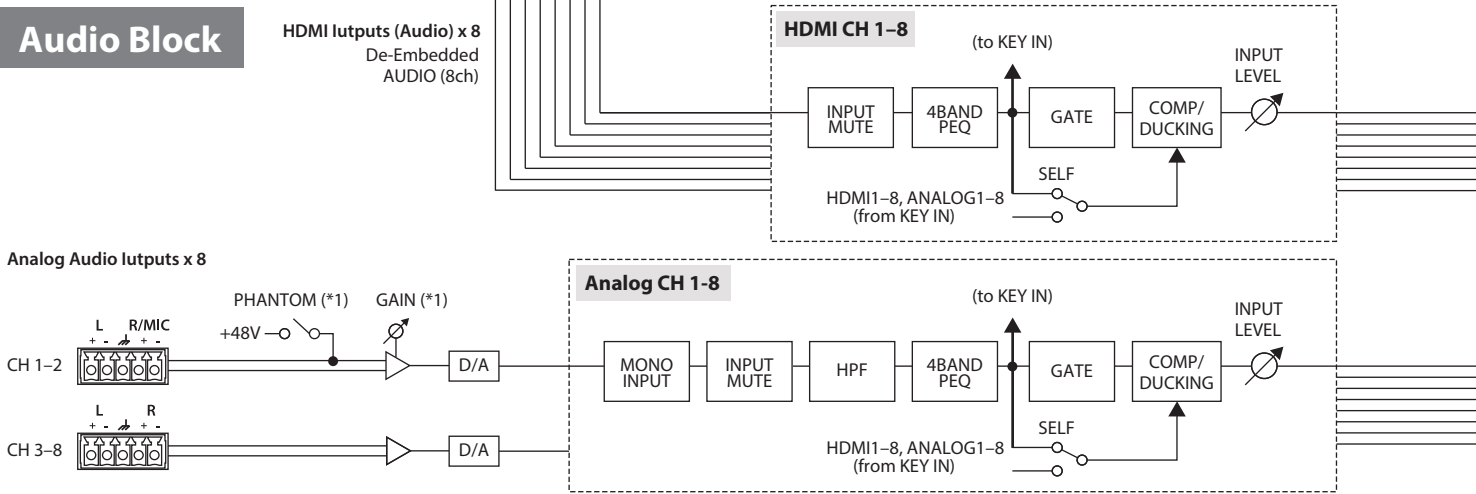
Video Block

HDMI/DVI Inputs x 8
Analog Video Inputs x 8

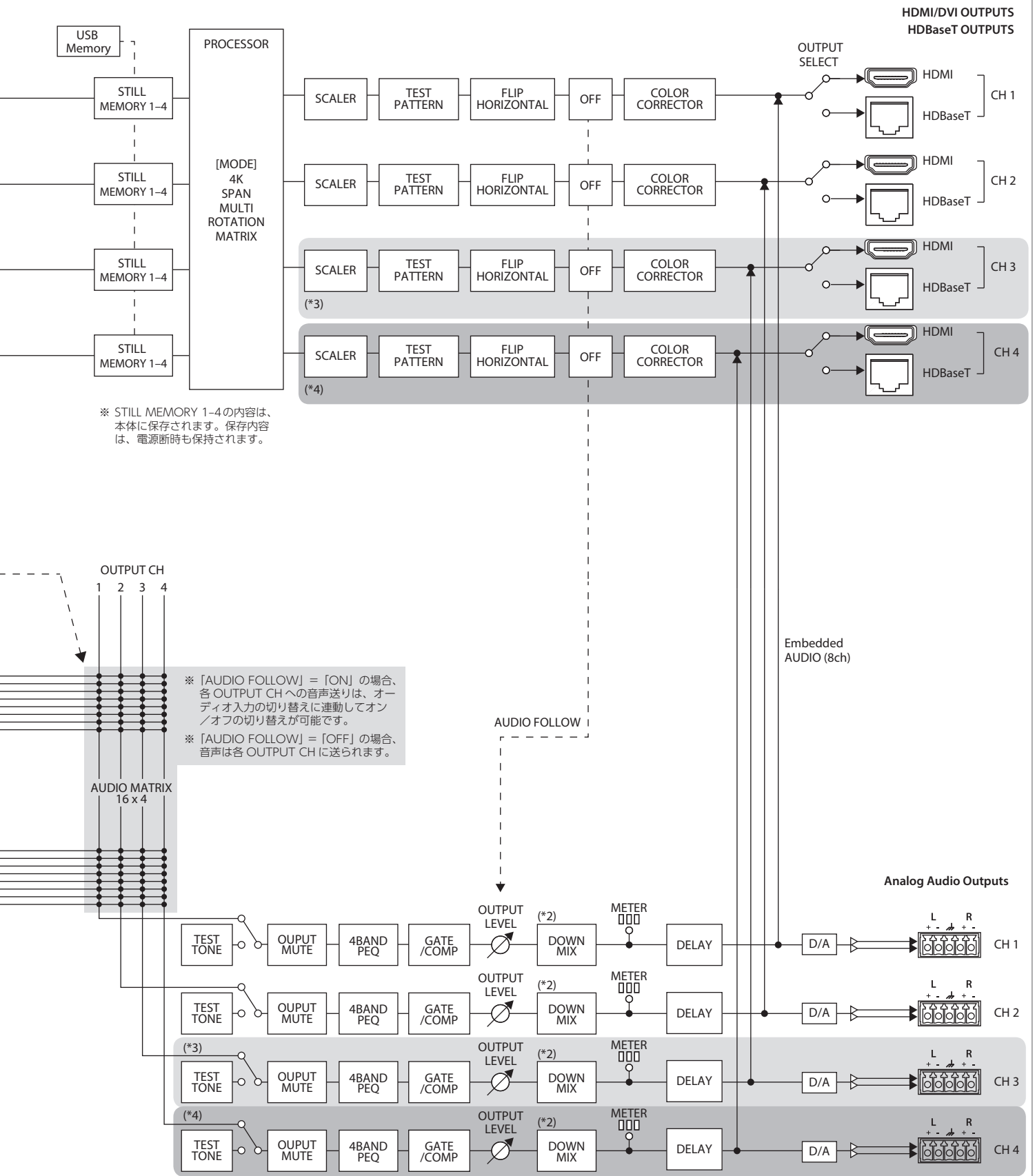


Audio Block

HDMI outputs (Audio) x 8
De-Embedded AUDIO (8ch)




(*1) ファンタム電源とゲインは、アナログ入力チャンネル 1、2 の R チャンネルのみ有効です。



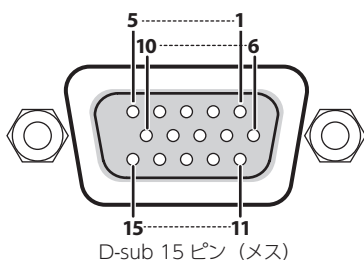
(*2) DOWN MIX : メニューから [OFF]、[STEREO > MONO]、[5.1ch > STEREO]、[5.1ch > MONO] を設定します。

(*3)  : XS-83H/XS-84H のみ。

(*4)  : XS-84H のみ。

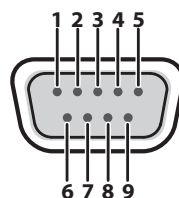
端子仕様

アナログ・ビデオ入力端子



ピン番号	入力映像信号の種類			
	RGB	コンポーネント	コンポジット	YC
1	Red	Pr/Cr		
2	Green/G on Sync	Y	VIDEO	Y
3	Blue	Pb/Cb		C
4				
5	GND			
6	GND	GND		
7	GND	GND	GND	GND
8	GND	GND		GND
9	DDC +5V			
10	GND			
11				
12	DDC データ			
13	HD			
14	VD			
15	DDC クロック			

RS-232C 端子

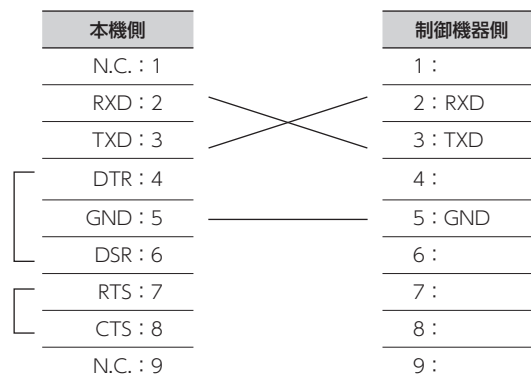


ピン番号	信号名
1	N.C.
2	RXD
3	TXD
4	DTR
5	GND
6	DSR
7	RTS
8	CTS
9	N.C.

通信方式	調歩同期式(非同期式)全二重
通信速度	9600bps/38400bps
パリティ	なし
データ長	8bit
ストップ・ビット長	1bit
コード体系	ASCII
フロー制御	XON/XOFF

ケーブル結線図

下図のように、RXD、TXD、GND の 3 本を結線してください。



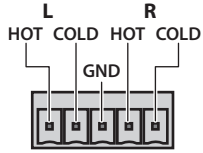
※ 4 番と 6 番、7 番と 8 番は、本機の内部で結線されています。

※ 制御機器 (RS-232C 対応のパソコンなど) との接続には、クロス・ケーブルをお使いください。

AUDIO INPUT / OUTPUT 端子

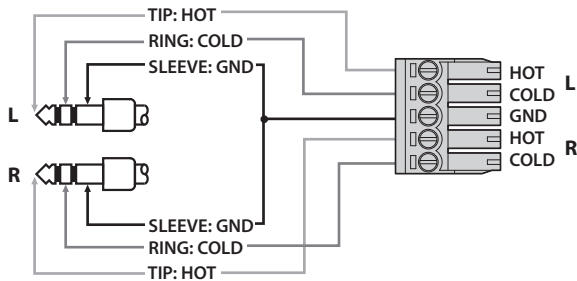
AUDIO INPUT / OUTPUT 端子は、下図のように配線されています。

バランス接続またはアンバランス接続に応じて、ケーブルを正しく配線してください。

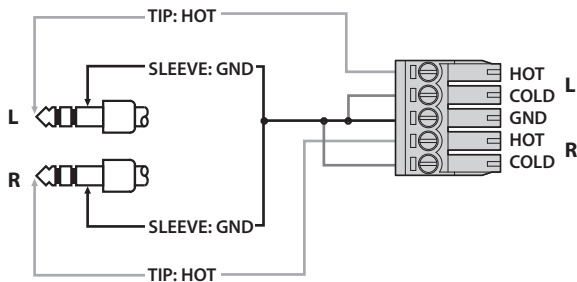


TRS プラグ

バランス接続

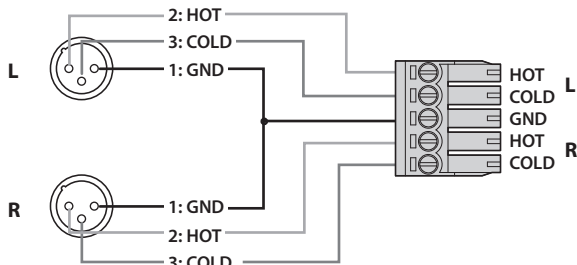


アンバランス接続

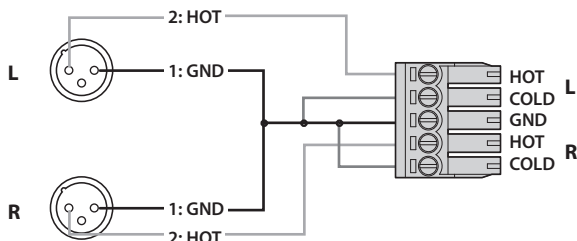


XLR プラグ (メス)

バランス接続

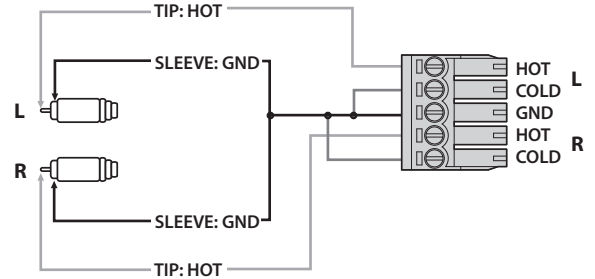


アンバランス接続



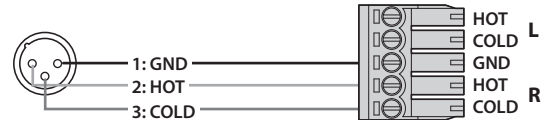
RCA ピン・プラグ

アンバランス接続

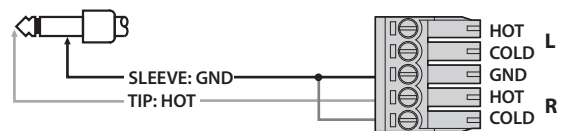


マイクの場合

バランス接続



アンバランス接続



主な仕様

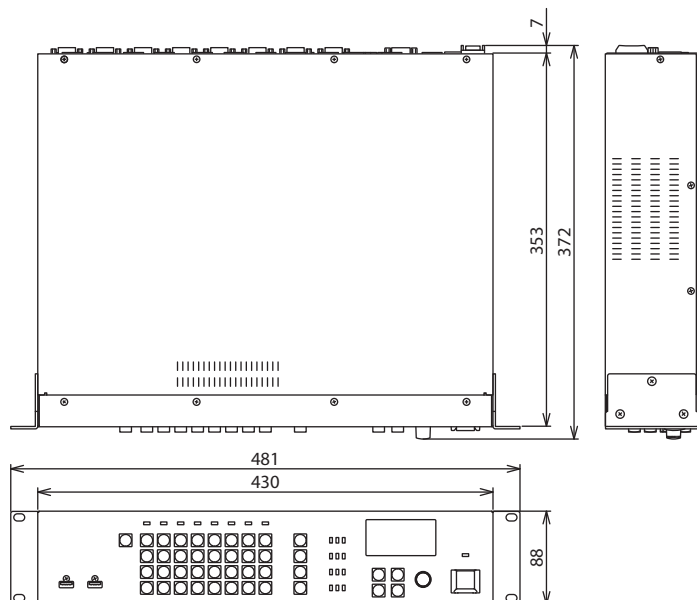
■ 映像			
映像処理		4 : 4 : 4 (Y/Pb/Pr)、10 ビット	
入力端子		HDMI	Type A (19 ピン) × 8 (INPUT 1 ~ 8) ※ HDCP 対応
		RGB / コンポーネント / コンポジット / S ビデオ	HD DB-15 タイプ × 8 (INPUT 1 ~ 8)
出力端子	XS-82H	HDMI	Type A (19 ピン) × 2 (OUTPUT 1 ~ 2)
		HDBaseT	RJ-45 × 2 (OUTPUT 1 ~ 2)
	XS-83H	HDMI	Type A (19 ピン) × 3 (OUTPUT 1 ~ 3)
		HDBaseT	RJ-45 × 3 (OUTPUT 1 ~ 3)
	XS-84H	HDMI	Type A (19 ピン) × 4 (OUTPUT 1 ~ 4)
		HDBaseT	RJ-45 × 4 (OUTPUT 1 ~ 4)
入力レベルおよびインピーダンス	アナログ RGB		0.7Vp-p 75 Ω (H, V : 5VTTL)
	アナログ HD コンポーネント		1.0Vp-p 75 Ω (同期信号 : 2 値 / 3 値)
	コンポジット / S ビデオ	レベル	1.0Vp-p (輝度信号)、0.286Vp-p (色差信号 (NTSC))、0.3Vp-p (色差信号 (PAL))
		インピーダンス	75 Ω
スキャン・コンパート部	入力部	アスペクト保持機能、画像調整機能 (ブライトネス、コントラスト、色調整、表示位置、サイズ、上下反転など) ※ 端子ごとに設定を保持します。	
	出力部	画像調整機能 (ブライトネス、コントラスト、表示位置、サイズ、左右反転、クロップなど) ※ 端子ごとに設定を保持します。	
入力映像フォーマット	HDMI	480/59.94i、576/50i、480/59.94p、576/50p、720/59.94p、720/50p、1080/59.94i、1080/50i、1080/59.94p、1080/50p、640 × 480/60Hz、800 × 600/60Hz、1024 × 768/60Hz、1280 × 768/60Hz、1280 × 1024/60Hz、1366 × 768/60Hz、1400 × 1050/60Hz、1600 × 1200/60Hz、1920 × 1080/60Hz、1920 × 1200/60Hz ※ ビデオ信号のフレーム・レートと本体のフレーム・レート設定を一致させてください。 ※ RGB フォーマット : VESA DMT Version 1.0 Revision 11 準拠 ※ 1920 × 1200/60Hz : Reduced blanking	
	RGB / コンポーネント	480/59.94i、576/50i、480/59.94p、576/50p、720/59.94p、720/50p、1080/59.94i、1080/50i、1080/59.94p、1080/50p、640 × 480/60Hz、800 × 600/60Hz、1024 × 768/60Hz、1280 × 768/60Hz、1280 × 1024/60Hz、1366 × 768/60Hz、1400 × 1050/60Hz、1600 × 1200/60Hz、1920 × 1080/60Hz、1920 × 1200/60Hz ※ ビデオ信号のフレーム・レートと本体のフレーム・レート設定を一致させてください。 ※ RGB フォーマット : VESA DMT Version 1.0 Revision 11 準拠 ※ 1920 × 1200/60Hz : Reduced blanking	
	コンポジット	480i/59.94、576i/50	
	S ビデオ	480i/59.94、576i/50	
	静止画 (Still Image)	Windows Bitmap File (.bmp) ※ 最大 1920 × 1200、1 ピクセル 24 ビット、無圧縮、最大 4 枚まで内蔵不揮発メモリーに記憶可能	
出力映像フォーマット	HDMI	480/59.94i、576/50i、480/59.94p、576/50p、720/59.94p、720/50p、1080/59.94i、1080/50i、1080/59.94p、1080/50p、640 × 480/60Hz、800 × 600/60Hz、1024 × 768/60Hz、1280 × 768/60Hz、1280 × 1024/60Hz、1366 × 768/60Hz、1600 × 1200/60Hz、1920 × 1200/60Hz ※ RGB フォーマット : VESA DMT Version 1.0 Revision 11 準拠 ※ 640 × 480/60Hz ~ 1366 × 768/60Hz : フレーム・レートの設定が 50Hz のとき、出力リフレッシュ・レートは 75Hz となります。 ※ 1920 × 1200/60Hz : Reduced blanking	
	HDBaseT	※ RGB フォーマット : VESA DMT Version 1.0 Revision 11 準拠 ※ 640 × 480/60Hz ~ 1366 × 768/60Hz : フレーム・レートの設定が 50Hz のとき、出力リフレッシュ・レートは 75Hz となります。 ※ 1920 × 1200/60Hz : Reduced blanking	
映像エフェクト	切り替え	擬似シームレス	
	モード	マトリクス、マルチ (最大 4 個まで)、スパン、左右 90 度回転、4K	
	その他	上下反転、左右反転、アウトプット・フェード、テスト・パターン出力 (カラーバー、ハッチ他)	
■ 音声			
音声処理		サンプリング・レート	24 ビット / 48kHz
入力端子		デジタル	HDMI Type A (19 ピン) × 8
		アナログ	5 ピン・ユーロブロック・タイプ × 8
出力端子	XS-82H	デジタル	HDMI Type A (19 ピン) × 2
		アナログ	5 ピン・ユーロブロック・タイプ × 2
	XS-83H	デジタル	HDMI Type A (19 ピン) × 3
		アナログ	5 ピン・ユーロブロック・タイプ × 3

出力端子	XS-84H	デジタル	HDMI Type A (19ピン) × 4
		アナログ	5ピン・ユーロブロック・タイプ× 4
入力レベルおよびインピーダンス	Ch1 ~ 2	入力レベル	-60 ~ +4dBu (最大入力レベル : +22dBu)
		入力インピーダンス	10k Ω (GAIN 0 ~ 23dBu)、5k Ω (GAIN 24 ~ 64dBu)
	Ch3 ~ 8	入力レベル	+4dBu (最大入力レベル : +22dBu)
		入力インピーダンス	8.5k Ω
出力レベルおよびインピーダンス	Ch1 ~ 4	出力レベル	+4dBu (最大出力 : +22dBu)
		出力インピーダンス	600 Ω
オーディオ・フォーマット	HDMI	リニア PCM、24ビット / 48kHz、8ch	
オーディオ・エフェクト	ステレオ 16 入力 4 出力デジタル・オーディオミキサー		
	入力チャンネル・エフェクト	ハイパスフィルター、モノラル、4 バンド・パラメトリック・イコライザー、コンプレッサー / ダッキング、ゲート	
	出力チャンネル・エフェクト	4 バンド・パラメトリック・イコライザー、コンプレッサー / ゲート、ダウンミックス、リップシンク・ディレイ (1msec 単位、最大 170msec)	
	その他	テスト・トーン出力、音声映像連動 / 非連動機能	
■ その他の機能			
プリセット・メモリー (32 個)、キー・ロック機能			
■ その他の端子			
RS-232C	9ピン D-sub タイプ× 1		
LAN	RJ-45 × 1		
USB	A Type × 2 (USB メモリー用、WNA1100-RL / ONKYO 社製 UWF-1 用)		
■ ディスプレイ			
グラフィック LCD 128 × 64 ドット			
■ その他			
電源	AC 100V (50/60Hz)		
消費電力	XS-82H	55W/0.6A (100V)	
	XS-83H	60W/0.6A (100V)	
	XS-84H	70W/0.7A (100V)	
外形寸法	481 (幅) × 353 (奥行) × 88 (高さ) mm (EIA-2U ラック 2U、突起含まず)		
質量	6.0kg		
付属品	電源コード (2P-3P 変換器付き)、取扱説明書、ローランド ユーザー登録カード、保証書、ユーロブロック・プラグ× 12、ゴム足× 5		

※ 0dBu=0.775Vrms

※ 製品の仕様や外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

外形寸法図



単位 : mm

お問い合わせの窓口

- 製品に関するお問い合わせ先

ローランドお客様相談センター **050-3101-2555**

電話受付時間： 月曜日～金曜日 10:00～17:30（弊社規定の休日を除く）

※IP電話からおかけになって繋がらない場合には、お手数ですが、電話番号の前に“0000”（ゼロ4回）をつけてNTTの一般回線からおかけいただくか、携帯電話をご利用ください。

※上記窓口の名称、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

- 最新サポート情報

製品情報、イベント／キャンペーン情報、サポートに関する情報など

ローランド・ホームページ <http://www.roland.co.jp/>

'13. 04. 01 現在 (Roland)

